

インターネットと経済学

担当教員 浦本 寛史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、論文・レポートの作成に必要な経済統計の情報が、どのようなところにあり、どのように活用できるのかを学ぶことを目的とする。具体的には、重要となる経済統計の情報を各省庁・研究機関のWebサイトを通じて一通り確認し、その情報の経済学的な意味の解釈を中心に講義を行う。これらの情報を元に、簡単な計量分析を行うことを通じ、現実の社会における問題点の定量的な把握方法について学んでもらいたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（登録と講義計画）
2	経済分析に用いる統計情報
3	情報検索の使い方
4	白書・レポート（政府系機関）
5	人口（人口構成・平均余命・将来推計）
6	労働（都道府県別失業および就業状態・労働需要）
7	企業（都道府県別設備投資・企業収益）
8	物価・景気（物価指数・景気動向）
9	家計（家計収支・世代間および世代内格差・消費（貯蓄）動向）
10	政府（国家予算・都道府県の財政）
11	金融（金利・通貨供給・為替）
12	単回帰分析
13	重回帰分析（検定を含む）
14	重回帰分析（ダミー変数・ロジット分析を含む）
15	分析への応用
16	期末考査（レポート含む）

【履修上の注意事項】

基礎的なミクロ経済学・マクロ経済学やPCの使い方に関し知識があることが望ましい。（必須ではない）

【評価方法】

レポート、出席、テスト、その他を加味し評価。

【テキスト】

詳細は第一回目の講義の際に指示する。

【参考文献】

福田慎一・照山博司，2011，マクロ経済学・入門 第4版（有斐閣アルマ）
鈴木正俊，2006，経済データの読み方（岩波新書）

欧米経済論 I

担当教員 村上 了太

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、主として歴史を軸にアメリカの経済構造や政治構造を学んでいくことを目的とする。とりわけアメリカ合衆国に焦点を絞って、内政・外交・経済などについて知識を広げていく。また必要に応じて、企業の勃興や生産システムの構築などにもふれ、アメリカの経済について考えていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の紹介と評価の方法
2	独立戦争
3	産業革命
4	南北戦争
5	自動車産業の勃興
6	第一次世界大戦
7	大恐慌
8	中間試験
9	ニューディール
10	第二次世界大戦
11	冷戦時代
12	ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争にみる経済活動
13	サブプライム・ローンやリーマン・ショックが語るアメリカ経済
14	現代アメリカ経済を考える
15	欧米経済論 I の質疑応答
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 私語、遅刻、理由なき途中退席、不必要な携帯電話の使用などは厳禁である。
- (2) 毎回の小テスト以外にも、質疑応答を実施する。

【評価方法】

出席（50%）＋試験（中間25%＋期末25%）で評価する。

【テキスト】

萩原・中本編『現代アメリカ経済』日本評論社、2005年。
ロバート・B・ライシュ『暴走する資本主義』（雨宮・今井訳）、東洋経済新報社、2008年。

【参考文献】

各回の講義で適宜紹介する

欧米経済論Ⅱ

担当教員 村上 了太

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

欧米経済論Ⅰを受けて本講義では、EUを対象とした経済分析を進め、ヨーロッパの政治・経済統合に伴う各国の動きを歴史的に解明していくことを目的としている。また身近に存在する企業との関連性もふまえて講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の紹介と評価の方法
2	EUの概要(制度、歴史)
3	英国①
4	英国②
5	英国③
6	フランス①
7	フランス②
8	中間試験
9	ドイツ①
10	ドイツ②
11	EUの拡大と統合①
12	EUの拡大と統合②
13	共通通貨ユーロの意義①
14	共通通貨ユーロの意義②
15	共同体とその意味
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 講義中の私語・携帯電話などは禁止である。
- (2) 新聞の国際欄を読むように習慣づけること。

【評価方法】

出席(50%) + 試験(中間25% + 期末25%) で評価する。

【テキスト】

辻悟一『EUの地域政策』世界思想社、2003年。

【参考文献】

田中他『現代ヨーロッパ経済』有斐閣アルマ、2001年。
羽場『拡大ヨーロッパの挑戦』中公新書、2004年。

応用マクロ経済学

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

応用ミクロ経済学

担当教員 一宮田 亮

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

沖縄経済入門

担当教員 浦本 寛史（他、複数教員）

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地元、沖縄経済について入門的な内容を講義する。沖縄経済の過去、現状、将来の課題等についてを経済学各分野からの視点を通じて直感的に理解できるようになることが本講義のねらいである。地元経済をまずはよく知り、そこから日本経済、アジア経済や世界経済を見て、自分の立つところを相対化できるようになることに主眼を置いている。なお、同講義は経済学科専任スタッフ全員と外部特別講師で担当する。

【授業の展開計画】

授業の内容

週	授 業 の 内 容
1	講義計画、成績評価方法、その他について（浦本）4/10
2	沖縄の小売業：サンエーの経済学（宮城）4/17
3	沖縄のソーシャルビジネス（村上）4/24
4	沖縄の文化産業の構造（浦本）5/8
5	沖縄の観光と経済（湧上）5/15
6	沖縄の若年者雇用問題（名嘉座）5/22
7	沖縄の交通問題（梅井）5/29
8	沖縄の自殺と生活保護（村上）6/5
9	沖縄の金融（安藤）6/12
10	沖縄の都市問題（崎浜）6/19
11	沖縄の基地問題（前泊）6/26
12	国際経済（新垣）7/3
13	経済統計（金城）7/10
14	沖縄の財政と社会保障（庵原後任）7/17
15	地域社会経済（平敷）7/24
16	総轄・テストまたはレポート7/31

【履修上の注意事項】

私語や携帯電話等、他の受講生に迷惑のかかる行為等は自重し、マナーを守ること。

【評価方法】

テストまたはレポートの成績、出席状況、その他を加味しつつ総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

特に指定しない。

沖縄経済論

担当教員 平敷 卓

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

貨幣経済論 I

担当教員 未定

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

貨幣経済論Ⅱ

担当教員 未定

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

環境経済学 I

担当教員 呉 錫畢

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地球温暖化の問題がかつてなく大きくクローズアップされている今日である。何が地球環境問題をもたらしたのか。経済要因なきには語れない環境問題であるが、経済成長への優先は環境の犠牲をもたらす。しかし、環境を重視すれば経済成長の停滞を感受しなければならない。つまり経済成長と環境は効率と公正との緊張関係にあるのである。このような問題意識に基づいて、環境経済学の理論のみならず、身近な沖縄の環境問題を経済学の観点より分かりやすく解説する。

【授業の展開計画】

- 1週目：環境と経済の話1
- 2週目：環境と経済の話2
- 3週目：沖縄経済と地域発展
- 4週目：環境破壊の経済的メカニズム
- 5週目：市場と外部経済
- 6週目：環境の経済価値
- 7週目：環境の価値評価の手段
- 8週目：開発と社会的共通資本1
- 9週目：開発と社会的共通資本2
- 10週目：環境政策の手段
- 11週目：沖縄経済発展と観光財
- 12週目：沖縄経済の特徴
- 13週目：沖縄経済のディレンマ
- 14週目：赤土汚染からみる沖縄の地域振興と開発
- 15週目：赤土汚染による生態系破壊
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

環境と経済に対して問題意識を持つこと。講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を中心に評価する。特にレポートと出席を重視する。

【テキスト】

呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさ—ターゲ—経済学序説—』、日本経済評論社。

【参考文献】

- (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
- (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。その他、テーマに添って随時紹介する。

環境経済学Ⅱ

担当教員 呉 錫畢

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、沖縄のサンゴ礁の持つ生態系や景観のような自由財の非利用価値を測り、地域経済の発展や豊かさの観点より環境経済学の視点より概説する。そして、自然の尊さを沖縄サンゴ礁の貨幣評価で表現し、沖縄観光経済の現在と将来を診断するとともに、さらに沖縄文化でもあるテーゲーの経済学化を試み、真の豊かさとは何かについて考察し、さらに真の豊かさから見る経済発展の新たなパラダイムを提示する。

【授業の展開計画】

- 1週目：環境はいくらか
- 2週目：CVM(仮想市場評価法)
- 3週目：赤土汚染からみる沖縄の地域振興と開発の功罪
- 4週目：赤土汚染による生態系及び環境の損害評価
- 5週目：沖縄におけるサンゴ礁の現状
- 6週目：サンゴ礁の生態系及び景観の経済評価
- 7週目：環境と沖縄の観光経済
- 8週目：竹富島とピノキオ観光
- 9週目：成長するアイルランド観光
- 10週目：アイルランド観光経済と沖縄観光
- 11週目：沖縄経済と済州経済
- 12週目：沖縄と済州の観光産業
- 13週目：内発的発展からみる沖縄経済の発展可能性
- 14週目：環境・経済・沖縄
- 15週目：真の豊かさとテーゲー経済学
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

環境と経済に対して問題意識を持つこと。講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を中心に評価する。特にレポートと出欠を重視する。

【テキスト】

呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説ー』、日本経済評論社。

【参考文献】

- (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
- (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。その他、テーマに添って随時紹介する。

企業分析

担当教員 安藤 由美

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

優良な企業とそうでない企業を見分けるためには、どうすればよいでしょうか？

人気ランキング、本社ビルの豪華さ、CMのイメージは役に立ちません。

企業の実力を知るためには、財務状況やマーケティングを調べる必要があります。その手法を財務分析・マーケティング分析と呼びます。両者の結果を総合的に判断するのが企業分析です。

大学生が就職活動を行う時、自分で企業分析を行いその情報に基づき、優良な企業を選別することを目指す。

また企業分析は、金融機関が融資の可否決定を行う際に利用しています。

【授業の展開計画】

1. 講義の概要
2. マーケティング分析 (1)
3. マーケティング分析 (2)
4. マーケティング分析 (3)
5. マーケティング分析 (4)
6. マーケティング分析 (5)
7. マーケティング分析 (6)
8. 中間テスト
9. 財務分析 (1)
10. 財務分析 (2)
11. 財務分析 (3)
12. 財務分析 (4)
13. 財務分析 (5)
14. 融資の基礎知識 (1)
15. 融資の基礎知識 (2)
16. 期末テスト

【履修上の注意事項】

講義には毎回電卓を持参すること。

登録者の条件。以下の①～③のいずれかを満たす者。

①簿記論Ⅰ、簿記論Ⅱを履修中または単位取得済み。

②簿記関係の単位を取得済み。

③日商簿記3級合格者。

【評価方法】

出席・小テスト・中間テスト・期末テストに基づき総合的に評価する。

【テキスト】

中島久「財務分析と定性分析による入門企業分析の手法と考え方」経済法令研究会、2009年

【参考文献】

基礎演習 I

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これから大学で学ぶにあたって、必要なスタディスキルを修得することが目的です。大学では、高校までの学習方法とはまったく異なるため、新生は戸惑うことが多いようです。本基礎演習ではこうした戸惑いを解消し、効率的な学習習慣を身につけ、有意義な大学生活を送ることができる準備を行います。演習のテーマ・内容は、1. 大学生として身につけておくべき「社会常識」2. レポートやプレゼンテーションに必要な「国語能力」3. 経済学を学ぶために必要な「基礎数学」の3つです。

【授業の展開計画】

「社会」「国語」「数学」の3つを、4～5回ずつ行う予定です。主な内容は以下の通りです。
社会常識：卒業後を意識した、大学4年間の過ごし方を考える。また、社会の一員としてのマナーや大学生がよく巻き込まれるトラブルなどの知識を得る。
国語能力：大学の講義で必ず必要になる、レポートやプレゼンテーションの基礎を修得する。資料の読み方や文章のまとめ方、図書館の利用方法など。
基礎数学：経済理論を学ぶために必要な、基礎的な数学を学ぶ。難易度は、中学から高校程度である。

【履修上の注意事項】

クラス分けがされていますので、それに従って登録してください。その他詳しい説明は、第一回目の講義にて行います。全体の3分の1を欠席すると不可とします。

【評価方法】

出席およびレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

『知のツールボックス―新入生援助集―』専修大学出版社

【参考文献】

講義時に、適宜指示する。

基礎演習 I

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習 I

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習 I は、学生間及び教員とのコミュニケーションを深める場であり、情報収集、文章読解、文章作成能力などを高める場でもある。この演習では、大学生としての基本的スキルを身につけ、発表できる能力を身につけることを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	テキストの読み方①
3	テキストの読み方②
4	資料の探し方①
5	資料の探し方②
6	レポートの書き方①
7	レポートの書き方②
8	フィールドワークー宜野湾市の土地利用変化ー
9	レジュメの書き方①
10	レジュメの書き方②
11	ゼミ発表の仕方
12	フィールドワークー中城村の企業立地
13	ゼミ発表・ディスカッション①
14	ゼミ発表・ディスカッション②
15	ゼミ発表・ディスカッション③
16	ゼミ発表・ディスカッション④

【履修上の注意事項】

出席、発表、課題の提出を重視する。

【評価方法】

成績評価は、出席、発表、課題提出などで、総合的に判断する。

【テキスト】

テキストは特にないが、参考文献は適宜指示する。

【参考文献】

森靖雄著『大学生の学習テクニック』大月書店

基礎演習 I

担当教員 平敷 卓

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習 I

担当教員 金城 敬太

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習 I

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Ⅱ

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

習を行います。そのため、グループに分かれ設定したテーマにもとづき、統計データや文献を調べ、互いに議論しながらテーマを深く追求していきます。クラスの中で発表し合うことによって、違った考えや意見があることを知り、また自分の意見を発表することができるようになります。後半には、クラス対抗のプレゼン大会を行い、競争を通じ楽しくプレゼン能力や課題解決能力などを磨いていきます。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス
第2週～第8週 テーマ設定、資料収集、プレゼンの準備などグループ別ワーク
第9週～第15週 クラス対抗プレゼン大会

【履修上の注意事項】

出席とグループでの発言内容、参加態度を重視する。全体の3分の1を欠席すると不可とする。

【評価方法】

出席およびレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

『知のツールボックス－新入生援助集－』専修大学出版社

【参考文献】

講義時に、適宜指示する。

基礎演習Ⅱ

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習Ⅱは、学生間及び教員とのコミュニケーションの場を深める場であり、読解力、情報収集・情報分析力、プレゼンテーション力などのスキルを高める場でもある。この授業では、大学生として基本的スキルを身につけて、その成果として、プレゼンテーション大会におけるグループ発表を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	後期ガイダンス
2	レジュメの作成方法
3	発表テーマの検討
4	発表テーマの検討
5	発表テーマの決定
6	プレゼンテーションの技法
7	プレゼンテーションの方法と実際
8	スライドの作り方（基礎編）
9	スライドの作り方（応用編）
10	プレゼン予行演習（第1回）
11	プレゼン予行演習（第2回）
12	プレゼン大会（第1回）
13	プレゼン大会（第2回）
14	プレゼン大会（第3回）
15	プレゼン大会（最終日）
16	まとめ

【履修上の注意事項】

出席、発表、課題の提出を重視する。

【評価方法】

成績評価は、出席、発表、課題提出などで、総合的に判断する。

【テキスト】

テキストは特にないが、参考文献は適宜指示する。

【参考文献】

基礎演習Ⅱ

担当教員 金城 敬太

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Ⅱ

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Ⅱ

担当教員 平敷 卓

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Ⅱ

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Ⅲ

担当教員 平敷 卓

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Ⅲ

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Ⅲ

担当教員 新垣 勝弘

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Ⅲ

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Ⅲ

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学科の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。講義は、経済事象を中心として、経済関係の文書の読み方、レポートの書き方、テーマの設定、問題の設定に応じた情報収集の方法、グループでの発表など基礎演習Ⅰ・Ⅱで使用したテキストも随時参照しながら、演習形式で進めていく。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス
第2週～5週 考え方、問題意識の設定
第6週～14週 レポート・論文の書き方
第15週 夏休みの課題

【履修上の注意事項】

出席と発言内容を重視する。全体の3分の1を欠席すると、不可とする。

【評価方法】

出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

『知のツールボックス―新入生援助集―』 専修大学出版局

【参考文献】

『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版
『考える技術・書く技術』 ダイヤモンド社

基礎演習Ⅲ

担当教員 村上 了太

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習Ⅲは、少人数の特長を活かして教員と学生のコミュニケーションを高めることを目的とする。前期ではパワーポイントを用いて社会課題とその解決法を提案できるプレゼンテーションを行う。本演習ではキーワードに「イノベーション」と「ソーシャルビジネス」を据える。また、経済活動から得られる様々な課題をビジネスという手法で持続性を持って解決していける学生を育成したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（演習の進め方）
2	グループ分け、発表割り当て、課題設定
3	プレゼンテーションの準備①
4	プレゼンテーションの準備②
5	プレゼンテーションの準備③
6	プレゼンテーション①
7	プレゼンテーション②
8	第1回の点検＋第2回の準備
9	プレゼンテーションの準備①
10	プレゼンテーションの準備②
11	プレゼンテーションの準備③
12	プレゼンテーション①
13	プレゼンテーション②
14	第2回の点検
15	まとめ
16	予備日

【履修上の注意事項】

- 1) 傾聴力と発進力を常に心がけてもらいたい。
- 2) パワーポイントの利用に関して、事前に操作可能にしてもらいたい。

【評価方法】

出席、授業への参加度合い、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。

【テキスト】

パワーポイントの解説本などを各自で選定してもらいたい。

【参考文献】

講義中に指示する。

基礎演習Ⅲ

担当教員 安藤 由美

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学科の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。講義は、経済事象を中心として、経済関係の文書の読み方、レポートの書き方、テーマの設定、問題の設定に応じた情報収集の方法、グループでの発表など基礎演習Ⅰ・Ⅱで使用したテキストも随時参照しながら、演習形式で進めていく。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス

第2週－15週 レポート・論文の書き方、文献の読見方、資料の調べ方など

【履修上の注意事項】

出席と発言内容を重視する。全体の3分の1を欠席すると、不可とする。

【評価方法】

出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト：4月の開講時に指示する

【参考文献】

基礎演習Ⅲ

担当教員 宮城 和宏

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学科の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。講義は、経済事象を中心として、経済関係の文書の読み方、レポートの書き方、テーマの設定、問題の設定に応じた情報収集の方法、グループでの発表など基礎演習Ⅰ・Ⅱで使用したテキストも随時参照しながら、演習形式で進めていく。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス

第2週－15週 レポート・論文の書き方、文献の読見方、資料の調べ方など

【履修上の注意事項】

出席と発言内容を重視する。全体の3分の1を欠席すると、不可とする。

【評価方法】

出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト：4月の開講時に指示する

【参考文献】

基礎演習Ⅳ

担当教員 平敷 卓

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Ⅳ

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Ⅳ

担当教員 新垣 勝弘

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Ⅳ

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本基礎演習は、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学科の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。講義は、経済事象を中心として、経済関係の文書の読み方、レポートの書き方、テーマの設定、問題の設定に応じた情報収集の方法、グループでの発表などテキストも随時参照しながら、演習形式で進めていく。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス

第2週～第15週 レポートの発表、テーマ別グループ発表、グループ間ディベートなど

【履修上の注意事項】

出席と発言内容を重視する。全体の3分の1を欠席すると、不可とする。

【評価方法】

出席状況と受講態度、及びレポート、発表内容により総合的に評価する。

【テキスト】

『知のツールボックス―新入生援助集―』 専修大学出版局

【参考文献】

『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版

『考える技術・書く技術』 ダイヤモンド社

基礎演習Ⅳ

担当教員 村上 了太

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習Ⅳは、少人数の特長を活かして教員と学生のコミュニケーションを高めることを目的とする。後期では前期でのプレゼンテーションの上達を試みる。後期もキーワードに「イノベーション」と「ソーシャルビジネス」を据える。また、経済活動から得られる様々な課題をビジネスという手法で持続性を持って解決していける学生を育成したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（演習の進め方）
2	グループ分け、発表割り当て、課題設定
3	プレゼンテーションの準備①
4	プレゼンテーションの準備②
5	プレゼンテーションの準備③
6	プレゼンテーション①
7	プレゼンテーション②
8	第1回の点検＋第2回の準備
9	プレゼンテーションの準備①
10	プレゼンテーションの準備②
11	プレゼンテーションの準備③
12	プレゼンテーション①
13	プレゼンテーション②
14	第2回の点検
15	まとめ
16	予備日

【履修上の注意事項】

- 1) 傾聴力と発進力を常に心がけてもらいたい。
- 2) パワーポイントの利用に関して、事前に操作可能にしてもらいたい。

【評価方法】

出席、授業への参加度合い、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。

【テキスト】

パワーポイントの解説本などを各自で選定してもらいたい。

【参考文献】

講義中に指示する。

基礎演習Ⅳ

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Ⅳ

担当教員 安藤 由美

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学科の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。講義は、経済事象を中心として、経済関係の文書の読み方、レポートの書き方、テーマの設定、問題の設定に応じた情報収集の方法、グループでの発表など基礎演習Ⅰ・Ⅱで使用したテキストも随時参照しながら、演習形式で進めていく。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス

第2週～15週 レポート・論文の書き方、文献の読見方、資料の調べ方など

【履修上の注意事項】

出席と発言内容を重視する。全体の3分の1を欠席すると、不可とする。

【評価方法】

出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト：4月の開講時に指示する

【参考文献】

基礎演習Ⅳ

担当教員 宮城 和宏

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学科の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。講義は、経済事象を中心として、経済関係の文書の読み方、レポートの書き方、テーマの設定、問題の設定に応じた情報収集の方法、グループでの発表など基礎演習Ⅰ・Ⅱで使用したテキストも随時参照しながら、演習形式で進めていく。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス

第2週～15週 レポートの発表、テーマ別グループ報告、グループ間ディベートなど

【履修上の注意事項】

出席と発言内容を重視する。全体の3分の1を欠席すると、不可とする。

【評価方法】

出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト：後期開講時に指示する

【参考文献】

キャリアデザイン論

担当教員 浦本 寛史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

多種多様な職業・規模、そして様々な価値観に触れることで、本格的な就職活動に向けて、自分に相応しい職業や進路を見出すキッカケとなることを目的とする。また、自らが理想とする生き方・働き方を実現するために、大学での過ごし方について具体的な考えることが出来るようになる。

グループワークであるため出席重視！

初回講義を欠席した学生は、登録を取り消す事があるので、初回講義には必ず出席すること！

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 チームづくりと1シート企画
- 3 企業からのミッション
- 4 チームワークとCIS
- 5 課題解決 (1) ～企業ミッションと課題を探る～
- 6 課題解決 (2) ～課題解決のアプローチ方法～
- 7 課題解決 (3) ～ユニーク発想法～
- 8 課題解決 (4) ～提案の事業プランの作り方～
- 9 中間プレゼンテーション
- 10 プレゼンテーション技術基礎 ～プレゼン本番に向けた企画書のブラッシュアップ～
- 11 課題解決 (5)
- 12 課題解決 (6)
- 13 プレゼン本番前リハーサル
- 14 プレゼン本番
- 15 各チーム企画提案書の振り返り
- 16 自身の学びの振り返り

【履修上の注意事項】

- ・グループワークが中心となるため、出席を重視するので、休まずに講義に出席すること！
- ・初回講義にグループ分けへ向けた調整を行うため、初回講義を欠席した場合は登録を取り消すことがある。

【評価方法】

- ・出席・グループワークの進め方・プレゼンの結果により総合的に評価する。

【テキスト】

- ・必要があれば講義時に指定する。

【参考文献】

- ・講義時に指定する。

経営学 I

担当教員 村上 了太

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、特定業界を事例に取り上げながら、企業とは何か、経営とは何かなどを考えることが目的である。また、大企業や中小企業、経営組織や経営戦略、経営の歴史や現状など幅広く経営学の入門科目として講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義の説明と評価の方法について）
2	経営学とは何か？
3	規制緩和と企業経営
4	食品企業の経営
5	タバコ企業の経営
6	通信企業の経営
7	道路関係企業の経営
8	中間試験
9	戦争ビジネス① ー軍産複合体を考えるー
10	戦争ビジネス② ー戦争の民営化を考えるー
11	電力企業の経営
12	醸造企業の経営
13	企業経営の理解
14	企業の社会的責任
15	経営学 I のまとめと質疑応答
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 私語・講義中の携帯電話（スマホを含む）の利用などは禁止である。
- (2) 後期開講の「経営学Ⅱ」との連続履修が望ましい。
- (3) 講義開始30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。

【評価方法】

出席（50%）＋試験（中間25%＋期末25%）。

【テキスト】

日本比較経営学会編『会社と社会』文理閣、2006年

【参考文献】

学習に必要な文献は、適宜講義中に指示する。

経営学Ⅱ

担当教員 村上 了太

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、「経営学Ⅰ」の応用科目と位置づける。大企業や中小企業の経営を基礎に、昨今、一部の企業で取り組まれている社会的企業、ソーシャルビジネス、さらには貧困ビジネスやブラック企業などについて触れ、企業の形態や社会貢献の相違などを比較しながら、企業とは何か、経営とは何かという課題に理解を深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義の説明と評価の方法について）
2	企業の目的、組織、形態
3	ビジネスを理解するための用語解説
4	社会貢献ビジネス
5	社会的企業と公益事業
6	データ比較による企業理解
7	労働と企業
8	中間試験
9	企業の変遷
10	ベンチャービジネス
11	社会的排除と経営学
12	貧困ビジネスとブラック企業の現状と課題
13	企業の本質
14	社会的企業とNPO
15	経営学Ⅱのまとめと質疑応答
16	期末試験

【履修上の注意事項】

前期開講の「経営学Ⅰ」からの履修が望ましいが、前提とはしない。

【評価方法】

出席（50%）＋試験（中間25%＋期末25%）。

【テキスト】

日本比較経営学会編『会社と社会』文理閣、2006年

【参考文献】

学習に必要な文献は、適宜講義中に指示する。

経済学史 I

担当教員 梅井 道生

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済の理論は、ある日突然経済学者の脳裏に出現したものではない。それは優れてその時代の歴史的状況に支配されている。現代に生きるわれわれにとって、過去の歴史を知ることが、ある意味で、現代社会の成り立ちを知ることに通じる。そのような意味で、歴史を知ることがきわめて重要である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の概要説明等、ビデオによるイギリス紹介 (Adam. Smithの生誕地、グラスゴー大学、墓等)
2	アンシャン・レジームと重農学派の成立
3	F. Quesneyの目指したもの
4	F. Quesney『経済表』
5	スコットランド学派とA. Smith
6	A. smithの生涯
7	スコットランド啓蒙と『道徳感情論』
8	『国富論』と分配の法則
9	分業論
10	価値論と分配論
11	生産的労働と不生産的労働
12	D. ricardoの生涯
13	『経済学および課税の原理』の構造
14	価値論と分配論
15	古典派経済学の終焉
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義の範囲が非常に広いため毎回の出席が必要である。
2年次優先。抽選となった場合は経済学科を優先する。

【評価方法】

定期試験、レポート等で評価する。

【テキスト】

開講時に追って指示する。

【参考文献】

開講時に追って指示する。

経済学史Ⅱ

担当教員 梅井 道生

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済学史Ⅰでは、主に古典派経済学について学んできた。経済学史Ⅱでは、それ以降の経済学について講義を進めて行く。

ケインズの有名な言葉に、「経済学は、自然科学ではなくて、モラル・サイエンスである」というのがある。経済学史Ⅰで学んだように、重農学派や『国富論』は、自然哲学やモラル・フィロソフィーと不可分といってよいほど密接な関係を持っていた。その後、経済学はその関係性を希薄化する傾向をたどった。

経済学史Ⅱでは、この問題に焦点を当て、講義を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の概要
2	T. R. MalthusとD. Ricardo—穀物法および地金論争
3	T. R. Malthusの『人口論』
4	『経済学原理』
5	古典派経済学の再編—J. S. Mill—
6	J. S. Millの生涯
7	『経済学原理』
8	生産論、分配論、交換論、動態論、社会主義論
9	ドイツとフランスの経済学
10	ドイツロマン主義—F. List—を中心に
11	革命後のフランス—J. B. Say—を中心に
12	新古典派経済学の展開—ケンブリッジの経済学者—
13	A. Marshall 『経済学原理』
14	ケインズ革命の意義
15	J. M. Keynes 『雇用・利子・および貨幣の一般理論』
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義の範囲が非常に広いため、毎回の出席が必要である。

【評価方法】

定期試験で評価する。

【テキスト】

開講時に指示する。

【参考文献】

必要に応じて、追って指示する。

経済学入門

担当教員 浦本 寛史（他、複数教員）

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済学の入門的な内容について学習する。経済学科の専門科目（専任）担当者全員がそれぞれの専門分野の入門的内容ををわかりやすく、かみ砕いて講義することにより、経済学とはどのような分野なのかを直感的に理解してもらいたい。多くの学生が経済学に関心を持てるようになることが本講義の目的である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義計画、成績評価方法、その他について（浦本）
2	入門・ファイナンシャルプランニング（安藤）
3	入門・日本経済論（湧上）
4	入門・経営学（村上）
5	入門・創造産業と経済学（浦本）
6	入門・労働経済学（名嘉座）
7	入門・経済史（梅井）
8	入門・計量経済学（金城）
9	入門・産業組織論（宮城）
10	入門・経済地理（崎浜）
11	入門・国際経済（新垣）
12	入門・企業分析（安藤）
13	入門・社会保障論（庵原後任）
14	入門・地域経済（平敷）
15	入門・公共経済学（松崎後任）
16	総括・テストまたはレポート（浦本）

【履修上の注意事項】

私語や携帯電話等、他の受講生に迷惑のかかる行為等は自重し、マナーを守ること。

【評価方法】

テストまたはレポートの成績、出席状況、その他を加味しつつ総合的に評価する。受講生の頑張りを評価したい。

【テキスト】

特に、指定しない

【参考文献】

経済史入門

担当教員 梅井 道生

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

人類の誕生とともに、人々は経済活動を営んできた。それはまず、衣？食？住に関する基本的なものであった。その後人類は、文化を築き、文明を発達させてきた。経済史とは、文字通り経済の歴史を研究する学問であるが、だからといって古代社会から現代までを対象にするわけではない。なぜかといえば、歴史はある意味で記録でもあるから、文字の発達を前提にするからである。したがって、この講義では、中世から近世にかけてのヨーロッパ経済史を対象に、近代社会がいかにして成立したのかを中心に考えて行きたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容、評価方法などの説明
2	中世の農業の特徴
3	中世都市の発達
4	商業の発達
5	貿易の発達
6	重商主義政策の成立
7	中世封建体制の崩壊
8	近代議会制度の成立
9	イギリスの状況
10	フランスの状況
11	ドイツの状況
12	アメリカの独立
13	世界市場の成立
14	イギリスにおける農村工業の発達
15	産業革命前夜
16	期末試験

【履修上の注意事項】

事実を積み重ねて全体を理解するという性格の講義であるから、毎回の出席が望ましい。抽選となった場合は、1年次優先予定。

【評価方法】

試験、レポート等による。

【テキスト】

イギリスで求めた経済史のテキストをプリントして配布予定。したがってある程度の英語力が必要。

【参考文献】

開講時に指示する。

経済社会学

担当教員 平敷 卓

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

経済情報処理 I

担当教員 金城 敬太

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、統計のソフトウェアを利用し、マイクロ経済分析と密接な関連のある、マーケティング・サイエンスを中心に、購買データや時系列データなど様々なデータを分析する方法について学びます。ソフトウェアを積極的に用いるのでその技術の習得にも役立ちます。

【授業の展開計画】

- 1 導入
- 2 Rプログラミング(データ入出力)
- 3 Rプログラミング(簡単なプログラミング)
- 4 重回帰分析
- 5 市場反応の分析と普及の予測
- 6 市場反応の分析と普及の予測 (演習)
- 7 消費者の購買モデル
- 8 ランク・ロジットモデルによる順序データの分析 (演習)
- 9 セグメンテーションと潜在クラスモデル
- 10 セグメンテーションと潜在クラスモデル (演習)
- 11 消費者間の異質性と階層ベイズモデル
- 12 消費者間の異質性と階層ベイズモデル (演習)
- 13 持続期間・生存時間データ解析
- 14 持続期間・生存時間データ解析 (演習)
- 15 レポート解説
- 16 まとめ

【履修上の注意事項】

「統計学 I」を履修していること。少なくとも最低限の統計の知識は必要となります。

【評価方法】

出席状況とレポート及び毎回の課題提出を総合的に評価する。
全体の3分の1を欠席すると不可とします。

【テキスト】

授業中に指定。

【参考文献】

里村卓也, 金明哲 (編集) 「マーケティング・サイエンス」 共立出版 (2010)
椿広計 岩崎正和 「Rによる健康科学データの統計分析」 朝倉書店 (2013)

経済情報処理Ⅱ

担当教員 金城 敬太

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

現在では、パソコンを駆使しインターネットを自由自在に使うことで、様々な情報を集めたりすることが当たり前になってきている。本講義では、経済の調査・研究のためインターネットとコンピュータを活用してデータを加工・分析する方法を学ぶ。具体的には、回帰分析や分散分析、因子分析を学んだあとに、経済統計によく用いられる時系列分析などの方法について学ぶ。特に、主にエクセルやRというソフトウェアを用いて、できるだけ分かりやすく解説し、実際に利用して多くの分析を体験することにより、データ分析の手法を学ぶ実践的な内容になる。

【授業の展開計画】

1. 分散 標準偏差、相関係数の算出とRの導入
2. 回帰分析（回帰モデルの考え方）
3. 回帰分析（単回帰モデルと重回帰モデルの構築と推計）
4. 分散分析Ⅰ（分散分析の考え方）
5. 分散分析Ⅱ（1要因による分散分析と2要因による分散分析）
6. 因子分析によるデータ解析（因子分析の考え方）
7. 因子分析によるデータ解析（データを用いた推計）
8. Rによる時系列データの扱い
9. 時系列データを用いた回帰分析（考え方と推計）
10. 定常時系列分析（時系列モデルの考え方と自己相関）
11. 定常時系列分析（ARモデル、MAモデル、ARIMAモデル）
12. 非定常時系列分析（ARCHモデルとGARCHモデル）
13. 多変量時系列分析（VARモデル）
14. 共分散分析（単位根と共積分）
15. レポートの解説
16. 復習

【履修上の注意事項】

統計学の知識をある程度前提としている。そのため、「統計学Ⅰ」を履修していることが望ましい。講義の最後にはテーマを与え、レポートを提出する。また、演習中心であるため、出席点も重視する。

【評価方法】

出席状況とレポート及び毎回の課題提出と試験を総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは特に使用しない。その都度、資料等を配布する。

【参考文献】

酒井隆「アンケート調査と統計解析が分かる本」日本能率協会マネジメントセンター
福地純一郎、伊藤有希「Rによる計量経済分析（シリーズ〈統計科学のプラクティス〉）」朝倉書店

経済数学 I

担当教員 金城 敬太

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、今日の経済学を考えるうえでは欠かせない、個人の意思決定の理論および、複数の個人・企業の意思決定の理論としてゲーム理論の数理を学びます。それぞれ問題や事例を取り上げて説明していきます。

【授業の展開計画】

- 1 導入
- 2 意思決定：バイアス
- 4 意思決定：リスク下の意思決定
- 5 意思決定：不確実性下の意思決定
- 6 ゲーム理論：ゲーム理論とは
- 7 ゲーム理論：非協力ゲーム・戦略形ゲーム
- 8 ゲーム理論：非協力ゲーム・ナッシュ均衡
- 9 ゲーム理論：非協力ゲーム・展開ゲーム
- 10 ゲーム理論：非協力ゲーム・チェーンストアパラドックス、繰り返しゲーム
- 11 ゲーム理論：不完全情報ゲーム
- 12 ゲーム理論：協力ゲーム
- 13 復習
- 14 演習および最終レポートの解説
- 15 最終レポート
- 16

【履修上の注意事項】

数学2・Bまでの「微分積分」を履修していること。

【評価方法】

出席を兼ねた課題、およびレポートにより判断する

【テキスト】

授業中に指定

【参考文献】

岡田章「ゲーム理論・入門 人間社会の理解のために」有斐閣アルマ
武藤滋夫「ゲーム理論入門」日経新聞社

経済数学Ⅱ

担当教員 金城 敬太

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、消費者や企業の意思決定など経済学の様々な場面で利用されている最適化について学びます。そのために基礎となる微分についての復習し、最適化問題を解いていきます。また、行列についての復習も行います。

【授業の展開計画】

- 1 導入
- 2 集合論・関数の復習
- 3 微分積分の復習
- 4 微分積分：微分と関数の極値
- 5 微分積分：偏微分
- 6 微分積分：テーラーの公式と極値
- 7 最適化：目的関数、凸関数、凹関数
- 8 最適化：ラグランジュ未定乗数法
- 9 最適化：非線形計画法
- 10 中間レポートの解説
- 11 線形代数：ベクトルと行列の加減
- 12 線形代数：ベクトルの行列の積、色々な行列
- 13 線形代数：逆行列
- 14 線形代数：行列式
- 15 最終レポートの解説
- 16 復習

【履修上の注意事項】

数学2・Bまでの微分積分を履修していることが望ましい。また、授業中に回答や板書をさせることがある。

【評価方法】

中間テストおよび最終レポートをもとに判断します

【テキスト】

授業中に指定

【参考文献】

A.C. チャン, K. ウェインライト「現代経済学の数学基礎<上><下>」シーエーピー出版; 第4版
西村清彦「経済学のための最適化理論入門」東京大学出版会

経済政策総論 I

担当教員 平敷 卓

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

経済政策総論Ⅱ

担当教員 未定

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

経済地理 I

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済地理学は、人文地理学の一部門であり、経済現象の地理的配置を説明し、経済地域的な成立・構造・機能を究明することは目的としている。経済地理 I では、古典的な経済立地に関する諸理論の概要を通して、経済地理学の研究方法と視角、さらに諸産業（農業・工業）などの立地特性について、過去と現在を比較しながら検討する予定である。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス
2. 農業立地の理論
3. 農業立地論①－チューネンの農業立地論－
4. 農業立地論②－チューネンモデルの事例－
5. 農業立地論③－現代日本の農業立地－
6. 沖縄県の農業
7. 沖縄県離島部の農業立地
8. 工業立地論①－ウェーバーの工業立地論－
9. 工業立地論②－ウェーバー理論の実際－
10. 工業立地論③－ウェーバー以後の工業立地論－
11. 工業立地論④－日本の工業地域－
12. 工業の立地政策①－日本の工業立地の現状－
13. 工業の立地政策②－ヨーロッパ・北アメリカ各国の工業政策－
14. 工業の立地政策③－中国、東南アジア各国の工業政策－
15. 農業立地論・工業立地論による空間構造の把握
16. 試験

【履修上の注意事項】

出席を重視する。講義中は私語、遅刻や途中退席はないように注意すること。

【評価方法】

成績評価は出席点とレポート、期末試験などで総合的に判断する。期末試験は本・ノート・配布資料など、持ち込みは「不可」で、記述形式で行う予定。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジユメを配布する。

【参考文献】

富田和暁（1996）『地域と産業－経済地理学の基礎－』大明堂。
ディビット・グリッグ（山本正三ほか訳）：『農業地理学入門』原書房。

経済地理Ⅱ

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済地理学は、人文地理学の一部門であり、経済現象の地理的配置を説明し、経済地域的な成立・構造・機能を究明することは目的としている。経済地理Ⅱでは、中心地理論とオフィスの立地を中心とする都市・商業空間の編成過程を検討する。さらに、近年の観光地形成に関わる問題点を比較考察し、沖縄の観光地形成のあり方を検討したい。

【授業の展開計画】

1. 人文地理学・経済地理学の概要
2. 中心地の立地理論①－クリスタラーの中心地研究－
3. 中心地の立地理論②－中心地理論に関する実証的研究－
4. 中心地の立地理論③－商業・サービス業の立地と中心地理論－
5. 中心地の立地理論④－オフィス立地の理論と実際－
6. 企業の立地戦略①－立地選択－
7. 企業の立地戦略②－立地適応－
8. 企業の立地戦略③－立地創造－
9. 企業の立地戦略④－産業集積と立地－
10. 企業の立地戦略⑤－立地ウォーズ－
11. 観光産業と地域①－世界の観光地域－
12. 観光産業と地域②－ヨーロッパ地域の観光地域－
13. 観光産業と地域③－日本の観光地域－
14. 観光産業と地域④－沖縄県の観光－
15. 観光産業と地域⑤－沖縄県島嶼部の観光－
16. 試験

【履修上の注意事項】

出席を重視する。私語、遅刻や途中退席はないよう注意すること。

【評価方法】

成績評価は出席や試験、講義時の作業物の提出や講義内容の感想および講義への参加姿勢で総合的に判断する。期末試験は、本・ノート・配布資料などの持ち込みは「不可」で、記述形式で行う。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

- 富田和暁（1996）『地域と産業－経済地理学の基礎－』、大明堂。
川端基夫（2008）『立地ウォーズ－企業・地域の成長戦略と「場所のチカラ」－』、新評論。

経済データ

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、調査・研究のための経済データの見方、扱い方について学ぶことを目的とする。調査研究は、知りたい事柄を明らかにするために調べることであり、何か分からないことや判断を下したり、行動を起こしたりするために必要となる情報を収集し、体系的に整理することである。したがって、経済データを見るためには、まず、調査の目的を明確にし、必要に応じたデータを効率的に集め、次に統計の癖や限界を知ること、観測されたデータを鵜呑みにするのではなく、背後にある要因について十分に注意を払う必要がある。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	経済分析の目的
3	経済分析における問題意識、問題形成
4	様々な経済データ
5	データ処理Ⅰ（平均、最大、最小、分散について）
6	データ処理Ⅱ（年平均伸び率、構成比の計算など）
7	経済財政白書など白書を用いたデータ分析
8	マクロ経済データ分析Ⅰ（GNPなど）
9	マクロ経済データ分析Ⅱ（各国比較、貧しい国と豊かな国）
10	県民所得のデータ分析（都道府県比較、沖縄は貧しい県か？）
11	所得格差関連のデータ（学力格差と所得格差の関係 沖縄の学力が低いのはなぜ？）
12	簡単な相関分析Ⅰ（相関関係とは）
13	簡単な相関分析Ⅱ（アイスクリームの売り上げと気温は関係あるか）
14	市町村の社会経済データⅠ（人口、市町村民所得、産業構造）
15	市町村の社会経済データⅡ（社会指標など）
16	テーマ分析とレポート提出要領

【履修上の注意事項】

講義の最後にはテーマを与え、レポートを提出する

【評価方法】

出席状況とレポート及び毎回の課題提出と試験を総合的に評価する。
全体の3分の1を欠席すると不可とする。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

特になし。その都度演習用の素材は提供する。

経済統計 I

担当教員 金城 敬太

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、統計学やパソコンを用いたデータ処理の手法をもとに経済学に関する具体的なテーマを取り上げ、応用およびデータ処理ができるようにします。より具体的には、時系列分析や、消費者のモデルについて概念的に学びながら、実際にソフトウェアで分析を行います。

【授業の展開計画】

- 1 導入
- 2 Rによる重回帰分析
- 3 Rによる時系列データの扱い
- 4 定常時系列分析
- 5 定常時系列分析
- 6 ARCHとGARCH
- 7 多変量時系列
- 8 非定常時系列
- 9 非定常時系列
- 10 パネル分析
- 11 ベイズ統計入門
- 12 パネルデータの統計モデル(1)一階層ベイズ回帰モデル
- 13 パネルデータの統計モデル(2)一階層ベイズ離散選択モデル
- 14 動学ベイズモデル
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

「統計学 I」を履修していること。

【評価方法】

出席状況とレポート及び毎回の課題提出を総合的に評価する。
全体の3分の1を欠席すると不可とします。

【テキスト】

福地純一郎、伊藤有希「Rによる計量経済分析（シリーズ〈統計科学のプラクティス〉）」朝倉書店

【参考文献】

なし

経済統計Ⅱ

担当教員 金城 敬太

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人々は、消費、学校、職場など数多くの場面で選択を行っています。本講義では、ミクロ経済における実証を視野にいれながら、人々がモノを選んだりすることをどのようにモデル化し、それらを統計的に実証していくかについて勉強します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	導入
2	離散選択モデル
3	2値選択モデル
4	2値選択モデルの推定 1
5	2値選択モデルの推定 2
6	2値選択モデルの最近の動向
7	多選択のロジットモデル
8	多選択のロジットモデル：条件付きロジットモデル、入れ子型ロジットモデル
9	多選択のロジットモデル：階層モデル
10	順序ロジットモデル
11	計数データのモデル 1
12	トービットモデル
13	持続時間モデル
14	新たな消費者モデル：マーケティングサイエンス
15	新たな消費者モデル：マーケティングサイエンス
16	

【履修上の注意事項】

統計に関する基礎、ミクロ経済学についてある程度理解していることが望ましい。
また、場合により、最新の消費者モデルなどの紹介を行う。

【評価方法】

出席、中間テスト、レポートで判断。

【テキスト】

授業中に指示

【参考文献】

Willam H. Greene 「グリーン計量経済分析」エコノミスト社

公共経済学

担当教員 未定

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

国際金融論 I

担当教員 島袋 伊津子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国際金融の現状に、受講者が関心を持ち自発的に学習する意欲を持たせることをねらいとする。そのために時事問題の理解に必要となる国際金融の基礎知識を学習する。具体的には、国際収支、為替レートの決定理論、為替リスクヘッジの手法、為替レートと貿易などを初学者にもわかりやすく解説する。教科書は指定しないが、国際金融論の教科書として出版されたものであれば、講義と大きくずれることはないので各自読みやすいものを選び復習することが望ましい。評価は筆記試験（50%）、グループ報告（50%）である。グループ報告のテーマは講義中に指示する。将来、金融関係の職業を目指すものに受講を勧める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンスーこの講義で学ぶことー
2	マクロ経済学の復習ー国民所得勘定, 国際収支ー
3	外国為替のしくみ
4	為替リスクヘッジの手法（1）
5	為替リスクヘッジの手法（2）
6	為替レートの決定理論（1）ー購買力平価説、金利平価説、UIPとCIP、ー
7	為替レートの決定理論（2）ーオーバーシュート・モデルー
8	為替レートと貿易（1）ー弾力性アプローチー
9	為替レートと貿易（2）ーISバランスアプローチー
10	マンデル=フレミングモデル（1）
11	マンデル=フレミングモデル（2）
12	筆記試験
13	グループ報告（1）
14	グループ報告（2）
15	グループ報告（3）
16	グループ報告（4）

【履修上の注意事項】

- ・講義内容は変更する場合があります。
- ・後期の「国際金融論Ⅱ」は「国際金融論Ⅰ」の知識を前提に行うのでⅠ・Ⅱセットで履修することをおすすめします。
- ・関連科目：「金融論Ⅰ・Ⅱ」「国際経済論Ⅰ・Ⅱ」、「経済発展論Ⅰ・Ⅱ」

【評価方法】

筆記試験（50%）、グループ報告（50%）の合計。

※筆記試験は自筆ノートのみ参照可

※筆記試験およびグループ報告は出席2/3以上を条件とする。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

「コア・テキスト国際金融論」藤井英次（著）新世社、「国際金融のしくみ」秦忠夫・本田敬吉（著）有斐閣

国際金融論Ⅱ

担当教員 島袋 伊津子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国際金融の現状に受講者が関心を持ち、自発的に学習する意欲を持たせることをねらいとする。前期の「国際金融論Ⅰ」の知識を前提とする。時事問題をテーマとして扱い、経済理論に基づいた分析を行う。具体的には、近年の金融危機、ヨーロッパの通貨統合、開発金融、通商問題などを初学者にもわかりやすく解説する。教科書は指定しないが、講義中に講義テーマに関連する本を紹介するので、復習することが望ましい。評価は筆記試験（50%）と個人報告（50%）の総合点とする。将来、金融関係の職業を目指すものに受講を勧める。時事問題を扱うため、講義内容を変更する場合がある。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンスーこの講義で学ぶことー
2	国際金融取引（1）ー国際収支の日米比較、国際金融市場ー
3	国際金融取引（2）ー銀行業務の国際化・機関投資家の国際投資ー
4	為替制度の歴史、為替制度の種類
5	ヨーロッパの通貨統合
6	金融危機（1）ー南米債務危機、アジア通貨危機ー
7	金融危機（2）ーサブプライムローン危機ー
8	金融危機（3）ー欧州金融危機ー
9	貿易・投資の自由化ー日本の通商問題ー
10	途上国における開発金融（1）
11	途上国における開発金融（2）映像視聴
12	筆記試験
13	個人報告（1）
14	個人報告（2）
15	個人報告（3）
16	個人報告（4）

【履修上の注意事項】

- ・講義内容は変更することがあります。
- ・「国際金融論Ⅱ」は、前期の「国際金融論Ⅰ」の知識を前提に行うので、Ⅰ・Ⅱセットで履修することを勧めます。
- ・関連科目：「金融論Ⅰ・Ⅱ」、「国際経済論Ⅰ・Ⅱ」、「経済発展論Ⅰ・Ⅱ」、「アジア経済と環境」、「アジア経済論Ⅰ・Ⅱ」、「欧米経済論Ⅰ・Ⅱ」

【評価方法】

筆記試験（50%）、個人報告（50%）。
 ※筆記試験および個人報告は出席が2/3以上であることを条件とする。
 ※筆記試験は自筆ノートのみ参照可能。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

「コア・テキスト国際金融論」藤井英次（著）新世社、「国際金融のしくみ」秦忠夫・本田敬吉（著）有斐閣

国際経済論 I

担当教員 -当銘 学

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済学部(2013年)の地域環境政策学科の国際経済論Iを参照してください。以下の授業の展開計画をはじめ、他の項目についても同様である。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

国際経済論 II

担当教員 当銘 学

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

2014年度の経済学部の地域環境政策学科における国際経済論IIを参照してください。以下の授業の展開計画をはじめ、他の項目についても同様となります。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

産業政策論

担当教員 未定

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

財政学 I

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態

単位数 0

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

財政学Ⅱ

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会思想史

担当教員 梅井 道生

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間の基本的な生活単位は、家庭生活であるが、外的な活動は社会的活動として行われる。しかもこの活動は、一定のルールに基づいているのである。しかし、このルールも首尾一貫したものではなく、時代背景が変われば変わっていくものなのである。時代背景の背後にあるもの、それが社会思想に他ならない。

したがって、歴史を真に理解するためには、歴史的事実だけを知るのではなく、時代の思想も併せて理解する必要がある。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1 社会思想とは何か。開講に当たっての諸注意
2	2 ルネッサンス的人間の社会思想
3	3 マキャヴェリの国家観
4	4 トーマス・モアと『ユートピア』
5	5 職業人の社会思想
6	6 ルネサンスと宗教改革
7	7 マルチン・ルターの宗教改革
8	8 ジョアン・カルビンの宗教改革
9	9 啓蒙的人間の社会思想
10	10 イギリス、スコットランド啓蒙
11	11 フランス啓蒙思想
12	12 現実的人間の社会思想 ーアダム・スミスと『国富論』
13	13 社会的人間の社会思想 ロバート・オーエン、サン・シモン
14	14 マルクス主義の成立
15	15 マルクス以降の社会思想
16	16 期末試験

【履修上の注意事項】

講義の範囲が非常に広いため、毎回の出席が必要である。

【評価方法】

定期試験およびレポート等で評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

必要があれば、講義の時に指示する。

社会保障論

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

集落地理論 I

担当教員 崎浜 靖

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

集落地理論 I では、集落の中でも「村落」の歴史地理に関する講義を行う予定である。とくに絵図資料や地図資料の読解方法、空中写真を用いた景観分析の方法、さらにフィールドワークの方法に重点を置く。また、映像資料、民俗学・地域史などの研究成果を盛り込みながら、沖縄村落の社会構造についてもふれる予定である。

【授業の展開計画】

- 1 村落地理学の研究史
- 2 村落と地図①－地形図の基礎－
- 3 村落と地図②－地形図の利用方法－
- 4 村落と地図③－空中写真の判読と利用方法－
- 5 村落と地図④－国土基本図と地籍図－
- 6 村落と地図⑤－古地図と絵図資料－
- 7 村落の景観①－景観概念－
- 8 村落の景観②－沖縄村落の景観－
- 9 村落の景観③－景観研究の事例－
- 10 村落の景観④－景観調査の方法と実践－
- 11 村落の景観⑤－景観の政治性－
- 12 村落の社会構造①－沖縄村落の歴史地理－
- 13 村落の社会構造②－村落空間と祭祀構造－
- 14 村落の社会構造③－村落社会調査の方法と実践－
- 15 村落景観と社会組織－巡検－
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に参加すること。課題提出と出席点を重視するので注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席点により総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

仲松弥秀著『神と村』 梟社
田里友哲著『論集 沖縄の集落研究』 離宇宙社

集落地理論Ⅱ

担当教員 濱里 正史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

証券市場論 I

担当教員 安藤 由美

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

証券市場論では、株式や国債・社債等について学びます。証券市場は、投資・資産運用や資金調達の間として重要性が高まっています。

Q:株式に投資する時、何を基準に選べばいいでしょうか？

株式や国債・社債等の基準・評価方法を講義で解説します。

銀行等で取扱っている投資信託・NISAを理解するためには、証券市場の知識が必要です。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 投資に関する理論 (1)
- 3 投資に関する理論 (2)
- 4 投資に関する理論 (3)
- 5 投資に関する理論 (4)
- 6 証券投資に関する理論 (1)
- 7 証券投資に関する理論 (2)
- 8 証券投資に関する理論 (3)
- 9 中間テスト
- 10 資本市場に関する理論 (1)
- 11 資本市場に関する理論 (2)
- 12 資本市場に関する理論 (3)
- 13 資本市場に関する理論 (4)
- 14 デリバティブの理論 (1)
- 15 デリバティブの理論 (2)
- 16 期末テスト

【履修上の注意事項】

証券市場論Ⅱとセットで受講することが望ましい。

前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

小テスト・中間テスト・期末テスト・出席状況に基づき総合的に評価する。

【テキスト】

石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 2005年

【参考文献】

証券市場論Ⅱ

担当教員 安藤 由美

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

証券市場論では、株式や国債・社債等について学びます。証券市場は、投資・資産運用や資金調達の間として重要性が高まっています。

銀行等で取扱っている投資信託・NISAを理解するためには、証券市場の知識が必要です。

前半の講義では、E X C E Lを活用して理論を検証する。また株価情報の分析を実習形式で行う。

後半の講義では、証券外務員二種試験の株式・債券に関する範囲を学習する。

【授業の展開計画】

1講義の概要・計画

2P C演習・情報収集

3P C演習・証券投資の実践 (1)

4P C演習・証券投資の実践 (2)

5P C演習・証券投資の実践 (3)

6P C演習・証券投資の実践 (4)

7P C演習・理論の検証 (1)

8P C演習・理論の検証 (2)

9中間テスト

10投資尺度 (1)

11投資尺度 (2)

12証券外務員 (株式)

13証券外務員 (株式)

14証券外務員 (債券)

15証券外務員 (債券)

16期末テスト

【履修上の注意事項】

証券市場論Ⅰの習得を前提とした授業を行う。

証券市場論Ⅰとセットで取得することが望ましい。

前回講義の確認として小テストを実施する。

毎回電卓を持参すること。

【評価方法】

小テスト・中間テスト・期末テスト・出席状況に基づき総合的に評価する。

【テキスト】

石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 2005年

【参考文献】

情報システム I

担当教員 真栄田 好史

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

情報システムは、コンピュータシステム（デジタル）だけではなく、人間が会社や組織などで行う活動（アナログ）も、情報活動を支えるシステムといえる。本講義は、システムを構築する際、システムに必要とされる、人、モノ、カネ、情報の流れを、整理、分類する方法の習得、何のためにシステム化が必要なのか、どの様に構築するのか考えさせ（検討、分析）、「基本理念（根）、基本コンセプト：概念」を設定する重要性も理解させ、基本計画または企画書などを作成する知識・技能習得に主眼をおいている。演習も行いたい。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション(講義計画, 評価方法等の説明)
2. 情報とシステム
3. 情報とは：情報の分類
4. システムへの応用：システムの範囲
5. システムへの応用：目標と目的
6. システムへの応用：業務分析とシステム分析
7. システムへの応用：企画の立案、目標の設定と問題点の分析
8. システムへの応用：復習
9. システムへの応用：復習 2
10. 練習問題
11. システム設計：演習 1
12. システム設計：演習 2
13. システム設計：演習 3
14. システム設計：演習 4
15. システム設計：演習 5
16. 期末テスト又はまとめ

【履修上の注意事項】

講義の最中に、YouTubeをはじめとしインターネットへのアクセスが多々見受けられます。

指示なく、インターネットへのアクセスは、禁止します。

また、講義に関係ない、YouTubeなどの動画閲覧などに関しては、一切アクセスを禁止します。

【評価方法】

成績評価の方法は、出席状況、受講姿勢、および試験（若しくは提出されたレポート又は課題）によっての内容を総合して判断する。なお、再試験、追試験は行わない。

【テキスト】

適宜資料を配付する。

【参考文献】

「システム分析入門」南条優 オーム社

「フローチャートの書き方」 ※その他、必要に応じて講義の中で紹介する。

情報システムⅡ

担当教員 真栄田 好史

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

プログラム（完成されたもの）とプログラミング（過程）の違いを理解させる。その上で、プログラミングに必要とされるフローチャートの作成とプログラムの解き方（アルゴリズム）について習得させることを目標とする。また、コンピュータ化されたものだけがプログラムでないことも併せて理解させる（紙の上でのプログラムの場合あり）。そのことも理解してもらいながら講義を行う。演習も行いたい。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション（講義計画、評価方法等の説明）
2. コンピュータの歴史：復習
3. プログラミングの初歩的な概念：開始～終了まで。
4. アルゴリズムの基礎
5. 流れ図の作成1：フローチャートの見方
6. 流れ図の作成2：フローチャートの書き方
7. 練習問題
8. アルゴリズムについて：基本形1
9. アルゴリズムについて：基本形2
10. アルゴリズムについて：分岐（条件）
11. アルゴリズムについて：繰り返し（ループ処理）
12. アナログとデジタルの違い
13. アナログで書かれたプログラム1
14. アナログで書かれたプログラム2
15. アナログで書かれたプログラム3
16. 期末テスト又はまとめ

【履修上の注意事項】

情報システムⅠを履修済みである者を優先させる。

講義の最中に、YouTubeをはじめとしインターネットへのアクセスが多々見受けられます。

指示なく、インターネットへのアクセスは、禁止します。

また、講義に関係ない、YouTubeなどの動画閲覧に関しては、一切アクセスを禁止します。

【評価方法】

成績評価の方法は、出席状況、受講姿勢、および試験（若しくは提出されたレポート又は課題）によっての内容を総合して判断する。なお、再試験、追試験は行わない。

【テキスト】

適宜資料を配付する。

【参考文献】

「アルゴリズムとデータ構造」アイ・ティ・フロンティア

「フローチャートの書き方」

※その他、必要に応じて講義の中で紹介する。

情報処理概論

担当教員 金城 敬太

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

“本講義では、情報処理技術と計算機の基礎的な演算方法について講義し、これらの基礎を築くことを目的とする。

具体的には、まず情報処理の概念と計算機の構造、およびその動作原理について学んでもらいたい。さらに、ファイルシステムおよびデータベースシステムの動作を理解し、これらのシステム運用に関し講義を行う。”

【授業の展開計画】

“1 インTRODクシヨン（登録と講義計画）

2 情報の概念

3 情報処理と計算機

4 半導体と演算

5 計算機の原理

6 中央演算装置とメモリー

7 オペレーティングシステム

8 ファイルシステム

9 通信技術とネットワーク

10 データベース I

11 データベース II

12 情報化とシステム開発

13 システムの運用管理 I

14 システムの運用管理 II

15 まとめ

16 期末考査

【履修上の注意事項】

【評価方法】

主に期末試験（レポート）に基づいて評価する。出席や課題も補助的な評価対象とする。

【テキスト】

第一回目の講義で指示する。

【参考文献】

“相田洋, 1995, 電子立国日本の自叙伝（NHKライブラリー）

浅井宗海, 1999, 新コンピューター概論（実教出版）”

情報と社会

担当教員 浦本 寛史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間は情報に対してどのように関わり、歩んできたのだろうか。現代社会の中で、情報の役割と情報技術がもたらす影響、インパクト、それに伴う人間社会の変容、さらに光と影を多面的に検討することを目的とする。

【授業の展開計画】

到達目標は以下のとおり。

1. ICTが及ぼす消費生活、経済、産業、政治、文化、教育などへの影響について説明することができる。
2. 今後ますます進歩し続ける情報技術とその社会に対して自分の意見を持つことができる。

- 1回目：情報に関し、収集、分析、判断、評価の定義
- 2回目：情報とメディアリテラシーの関係を見出す
- 3回目：人・社会・技術（人間と情報とのかかわりを探り、ICT社会の未来を見つめる）
- 4回目：ユビキタス情報社会（身のまわりにある情報化（IT化）を認識し、どのような役割を担っている）
- 5回目：情報化と消費者心理（行動心理学的な観点から情報化社会が生み出した行動変容を探る）
- 6回目：情報経済の構造（ICTの社会的影響と情報経済を変化とその問題点を理解する）
- 7回目：情報経済の構造（ICTの社会的影響と情報経済を変化とその問題点を理解する）
- 8回目：情報の保管・運営（日本における、コンテンツの利用法とアーカイブの役割を理解する）
- 9回目：情報化社会における創造性（学校教育の役割と人材育成について理解を深める）
- 10回目：情報化社会における創造性（学校教育の役割と人材育成について理解を深める）
- 11回目：通信と放送の融合（コンテンツ作成手法と放送との融合メリットを探る）
- 12回目：情報社会の未来（理想的なICT利用と新しいコミュニケーションの形を考える）
- 13回目：補講 上記の授業について時間不足が生じた場合補講とする。
- 14回目：補講 上記の授業について時間不足が生じた場合補講とする。
- 15回目：振り返り
- 16回目：最終試験

【履修上の注意事項】

ディスカッション形式や発表の場面が多いため、積極的に授業参加を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢（20%）、最終試験（80%）を総合的に判断、評価する。

【テキスト】

特にテキストの指定はしない、適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

インストラクショナルデザインの原理（鈴木克明監訳：北大路書房）、情報技術と社会（大岩元、辰巳文雄：放送大学教育振興会）、各種統計（総務省Webサイト参照）

情報文化論 I

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

近年、情報文化という言葉が頻りに耳にするが、この言葉によって何を意図しようとするのかは、明確ではない。これは情報文化という概念がまだ定着しておらず、いろいろな意味合いで使用されているからである。それが現代社会の特徴、現象、事象を表現する言葉として、きわめてインパクトが強いからであろう。そこで本授業では、情報文化の歴史を通して使用例、定義例を紹介し、それらと現在の情報環境を踏まえて情報文化の新たな定義を提案する。講義を通じた到達目標は次のようになる。

【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

1. 情報文化に関し自分の言葉で定義することができる
2. 情報リテラシー能力（収集、分析、発信、著作など）を身につけることができる
3. 社会において情報文化がもたらす光と影を説明することができる

- 1週目 授業内容の確認と事前テスト（情報、メディアに関するテスト）
- 2週目 情報文化に関する世界各国の定義
- 3週目 情報とメディアリテラシー
- 4週目 情報を運ぶ媒体の歴史
- 5週目 カルチャラル・スタディーズ
- 6週目 情報伝達の基本的理論と概念
- 7週目 メディアの時代（新聞・印刷技術の発展）
- 8週目 中間試験（習得度確認）
- 9週目 メディアの知（プロパガンダ）
- 10週目 電話・電信の歴史と利用法
- 11週目 マス・メディアとしてのラジオ
- 12週目 テレビの変遷（テレビの波及効果）
- 13週目 情報メディアがもたらす家族の変化
- 14週目 特別講義（メディア企業関連）
- 15週目 ふりかえり
- 16週目 最終試験

【履修上の注意事項】

履修上の注意事項 パーソナルコンピュータの基本操作ができるもの

【評価方法】

事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。

【テキスト】

レジメや資料を配布する

【参考文献】

1. 総務省白書、2. 情報文化関連参考文献、3. 情報検定

情報文化論Ⅱ

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

情報文化論Ⅱでは、情報文化論Ⅰで習得した知識をさらに深め、様々な定義に基づいて情報文化の諸側面(情報の重要性, 情報機器, 情報リテラシー, 情報管理体制, 制度, 文化的側面), 情報文化の事例, わが国、わが県における情報文化の特徴について学ぶ。また、県内企業との連携も図り現場での情報技術がどのように社会貢献しているか学ぶ。講義を通じた到達目標は次のようになる。

【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

1. 情報文化が社会にもたらす影響を説明することができる
2. 情報技術を利用した現場を視察し、情報文化の動向を説明することができる

1週目 授業内容の確認と事前テスト(情報文化論Ⅰで学んだことも含む)

2週目 情報文化がもたらす社会への影響(経済)

3週目 情報文化がもたらす社会への影響(教育・家族)

4週目 複合的なメディアリテラシー

5週目 複合的なメディアリテラシー

6週目 事例を通して批判的理論と実践

7週目 事例を通して批判的理論と実践

8週目 中間試験(習得度確認)

9週目 県内視察(メディア関連施設)

10週目 情報文化における広告手法の変遷

11週目 アジアの情報文化事例

12週目 アジアの情報文化事例

13週目 特別講義(IT企業関連)

14週目 情報文化における編集活動の変容

15週目 ふりかえり

16週目 最終試験

【履修上の注意事項】

パーソナルコンピュータの基本操作ができるもの、情報文化論Ⅰを習得したものが望ましい

【評価方法】

事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。

【テキスト】

レジメや資料を配布する。

【参考文献】

1. 総務省白書、2. 情報文化関連参考文献、3. 情報検定、4. DVD、ビデオ教材

情報リテラシー演習

担当教員 平敷 卓

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

情報リテラシー演習

担当教員 安藤 由美

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今後の大学生活や社会生活において必要とされる、情報機器の基礎的な操作技能の修得を目指します。具体的には、基礎的なコンピュータの操作方法やインターネット・メールの使い方等をはじめ、ワードやエクセル、パワーポイントの基本的な操作方法について説明します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	基本的な操作方法と日本語入力の練習
3	インターネットの活用方法と電子メールの利用方法
4	ワードの操作方法 (1)
5	ワードの操作方法 (2)
6	ワードの操作方法 (3)
7	ワードの操作方法 (4)
8	エクセルの操作方法 (1)
9	エクセルの操作方法 (2)
10	エクセルの操作方法 (3)
11	エクセルの操作方法 (4)
12	エクセルの操作方法 (5)
13	パワーポイントの操作方法 (1)
14	パワーポイントの操作方法 (2)
15	パワーポイントの操作方法 (3)
16	

【履修上の注意事項】

出席を重視する。課題提出を重視する。

【評価方法】

出席と課題(提出状況・内容)に基づき評価する。

【テキスト】

テキストなし。
毎回資料を配付する。

【参考文献】

なし

情報リテラシー演習

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

西洋経済史 I

担当教員 梅井 道生

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済史とは、文字通り経済の歴史を研究する学問である。しかし、その範囲はあまりにも広いため、ここでは時代区分をある程度限定しなくてはならない。すなわち、この講義ではヨーロッパにおける経済の発達—具体的には農業社会→商業社会→工業化社会への変化—を見ていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容、評価の方法などの説明
2	中世ヨーロッパ社会の特徴
3	農業—三圃式農業から輪裁式農業へ—
4	都市国家の成立
5	商業の発達
6	国内市場から海外市場へ
7	植民地経営の進展
8	重商主義政策の進展
9	重金主義政策
10	差額貿易主義政策
11	産業保護政策
12	絶対主義体制の崩壊
13	イギリスとフランス
14	イギリスにおける農業革命
15	イギリスにおける産業革命前夜
16	期末試験

【履修上の注意事項】

事実の積み重ねという性格の学問であるから、毎回の出席が必要である。

【評価方法】

定期テストおよびレポート等で評価する。

【テキスト】

イギリスで手に入れた経済史のテキストをプリントして配布する。したがって、ある程度の英語力が必要である。

【参考文献】

開講時に指示する。

西洋経済史Ⅱ

担当教員 梅井 道生

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

西洋経済史Ⅰでは、中世絶対王政の崩壊のところまで学んできた。この過程は、まさに近代社会を生み出すために必要なものであった。すなわち、王政の崩壊は、その内部に近代化の萌芽を含んでいたのである。したがって、ここでは近代化が全面開花したヨーロッパ社会の実情を見ていきたい。その際中心になるのは、どうしてもイギリスの産業革命であろう。ここでは、この「革命」に焦点を当て、なぜイギリスでそれが可能だったのかを考えていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の内容、評価方法などの説明
2	ビデオ上映—Sheffieldの工場跡、Belper峡谷の工場群、アークライト工場—など
3	イギリスでなぜ産業革命が起きたのか？
4	二つの革命
5	価格革命
6	農業革命
7	羊毛工業の発達—オランダとの関係—
8	綿工業の発達
9	機械化と発明の進展
10	関連産業の発達
11	鉄鋼業
12	石炭産業
13	消費の拡大と国内市場の形成
14	大英帝国の没落とその原因
15	アメリカおよびドイツの産業革命
16	期末試験

【履修上の注意事項】

事実の積み重ねという性格の学問であるから、毎回の出席が必要である。

【評価方法】

定期テストおよびレポート等で評価する。

【テキスト】

イギリスで手に入れた経済史のテキストをプリントして配布する。したがって、ある程度の英語力が必要である。

【参考文献】

開講時に指示する。

専門演習 I A

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習 I A

担当教員 新垣 勝弘

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習 I A

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習 I A

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習Ⅱにおける卒業論文作成に向けた経済学の専門知識を深めていくことと、雇用失業や財政、産業など沖縄県及び全国の社会経済への認識を、論文や専門書の輪読等によって深めていく。日本や沖縄の社会・経済の現状を冷静に分析し、どうすれば地域が発展し、住民が幸福になるのか、グループ討議も含め議論を重ねながら、一緒に考えていく。

【授業の展開計画】

第1週 オリエンテーション（講義予定など）
第2～3週 論理的な考え方（図解思考法、マインドマップなど）
第4～6週 経済問題に対するディスカッション（日常のテーマを経済学的に考える）
第7～9週 専門書、論文等の輪読
第10～15週 調査手法を学ぶ（課外授業、外部講師による講義など）
第16週 前期総括及び夏休みの課題テーマの発表など

【履修上の注意事項】

所得格差、労働問題や財政問題、中心市街地の活性化など幅広い分野に関心があり、調査研究意欲があること。積極的に発表したり、ディスカッションに加われること。また、ゼミの合宿や懇親会等にも積極的に参加すること。

【評価方法】

発表への積極性、討議内容、出席及びレポートを総合的に評価する。
講義は毎回出席できること。また、遅刻は減点とするので時間はしっかり守ること。

【テキスト】

特にないが、そのつど紹介する

【参考文献】

「問題解決力」稲崎宏治 ダイアモンド社、「寓話で学ぶ経済学」ラッセル・ロバーツ 日本経済新聞社、
「経済学で現代経済を読む」ダグラス・ノース他 日本経済新聞社 など

専門演習 I A

担当教員 安藤 由美

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

金融市場・経済問題について調査・報告する。

【授業の展開計画】

沖縄県の金融市場・経済問題について調査・報告する。

- (例) ・沖縄県民の家計
- ・沖縄県における観光産業

【履修上の注意事項】

出席を重視する。

【評価方法】

出席状況、演習参加姿勢、レポートに基づき評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

特に指定しない。

専門演習 I A

担当教員 村上 了太

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（自己紹介等）
2	報告レジュメ作成、ディスカッションの仕方、報告割当
3	報告・ディスカッション（1）
4	報告・ディスカッション（2）
5	報告・ディスカッション（3）
6	報告・ディスカッション（4）
7	報告・ディスカッション（5）
8	工場見学または課外授業
9	報告・ディスカッション（6）
10	報告・ディスカッション（7）
11	報告・ディスカッション（8）
12	報告・ディスカッション（9）
13	報告・ディスカッション（10）
14	経営学関係のビデオ/DVD学習
15	専門演習 I Aの反省会・総括
16	予備日

【履修上の注意事項】

学生の積極性を重視する。本演習での積極性とは、「〇〇がいやだ」、「△△が気に入らない」という姿勢から、「□□がやってみたい」、「◎◎のようになりたい」への転換である。教室で報告する力、ゼミ生とディスカッションする力、また集団で議論をまとめる力などを培ってほしい。

【評価方法】

出席、報告（レジュメ）などを総合的に評価する。

【テキスト】

演習開始時に指示する。

【参考文献】

参考になる文献は適宜紹介する。

専門演習 I A

担当教員 梅井 道生

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

いま、アジアが面白い。私がイギリスに滞在した時に、一番元気だったのがアジアからの留学生だった。また、実際にアジア諸国に行った際、元気をもらって来たのは、この地域である。したがって、この演習では、主としてアジアの経済について研究していきたいと考えている。

【授業の展開計画】

基本的に、グループ毎にテーマを与え、報告討論の形式をとる。

【履修上の注意事項】

アジアの経済問題に関心ある者、および私の科目履修生が望ましい。

【評価方法】

出席およびレポートで評価する。

【テキスト】

特になし。時宜に応じて指示する。

【参考文献】

特になし。

専門演習 I B

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習 I B

担当教員 梅井 道生

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期は、アジア地域の基本的な特性について研究してきた。後期は、さらに経済問題について、より深く探求を進めていく。

【授業の展開計画】

毎回、報告討論の形式で進めていく。

【履修上の注意事項】

新聞、とくにアジアに関する記事に関心を持って読むように。

【評価方法】

出席および受講態度で評価する。

【テキスト】

特に無い。

【参考文献】

必要に応じ指示する。

専門演習 I B

担当教員 村上 了太

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	報告割当、連絡事項ほか
2	報告・ディスカッション (1)
3	報告・ディスカッション (2)
4	報告・ディスカッション (3)
5	報告・ディスカッション (4)
6	報告・ディスカッション (5)
7	報告・ディスカッション (6)
8	課外授業または社会人特別講師の授業
9	報告・ディスカッション (7)
10	報告・ディスカッション (8)
11	報告・ディスカッション (9)
12	報告・ディスカッション (10)
13	報告・ディスカッション (11)
14	報告・ディスカッション (12)
15	専門演習 I B の反省会・総括
16	予備日

【履修上の注意事項】

専門演習 I A からの継続履修を前提とする。学生の積極性を重視する。本演習での積極性とは、「〇〇がいやだ」、「△△が気に入らない」という姿勢から、「□□がやってみたい」、「◎◎のようになりたい」への転換である。教室で報告する力、ゼミ生とディスカッションする力（特に本演習では、グループディスカッション）などを培ってほしい。

【評価方法】

出席、報告（レジュメ）などを総合的に評価する。

【テキスト】

演習開始時に指示する。

【参考文献】

参考になる文献は適宜紹介する。

専門演習 I B

担当教員 安藤 由美

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

金融市場・経済問題について調査・報告する。

【授業の展開計画】

沖縄県の金融市場・経済問題について調査・報告する。

- (例) ・沖縄県民の家計
- ・沖縄県における観光産業

【履修上の注意事項】

出席を重視する。

【評価方法】

出席状況、演習参加姿勢、レポートに基づき評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

特に指定しない。

専門演習 I B

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習 I Aでの学習を踏まえて、後期ではグループ別に興味のあるテーマについて調査を行い、その結果を発表・討議する。また、グループ活動を通して各自の卒論のテーマについても考えていく。

【授業の展開計画】

第1週	オリエンテーション（講義予定など）
第2～3週	夏休み課題の発表とディスカッション
第4週	外部講師による講義
第5～7週	グループによる調査研究 I（テーマ選択、研究の企画づくり）
第8～12週	グループによる調査研究 II（企業訪問、アンケートなど）
第13～15週	調査結果の発表と討議
第16週	後期の反省および総括

【履修上の注意事項】

所得格差、労働問題や財政問題、中心市街地の活性化、企業経営など、幅広い分野に関心があり、調査研究意欲があること。積極的に発表したり、ディスカッションに加われること。

【評価方法】

発表への積極性、討議内容、出席及びレポートを総合的に評価する。
講義は毎回出席できること。また、遅刻は減点とするので時間はしっかり守ること。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

適宜紹介する

専門演習 I B

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習 I B

担当教員 新垣 勝弘

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習ⅡA

担当教員 崎浜 靖

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習ⅡAは、卒業論文作成に向けてのトレーニングの場です。ゼミ生は卒業論文計画書を作成し、お互いの発表内容について議論しながら、6月から7月にかけての卒業論文中間発表会に臨んで下さい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	卒業論文作成の方法と実際①
3	卒業論文作成の方法と実際②
4	研究計画書の作成
5	研究計画書の検討
6	研究計画書の発表
7	報告・ディスカッション①
8	報告・ディスカッション②
9	報告・ディスカッション③
10	報告・ディスカッション④
11	報告・ディスカッション⑤
12	報告・ディスカッション⑥
13	報告・ディスカッション⑦
14	報告・ディスカッション⑧
15	報告・ディスカッション⑨
16	報告・ディスカッション⑩

【履修上の注意事項】

出席を重視する。

【評価方法】

出席、報告、議論への参加状況などで総合的に判断する。

【テキスト】

テキスト：特になし

【参考文献】

参考文献：各自の研究テーマにあった文献を、その都度指示する。

専門演習ⅡA

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習ⅡA

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習Ⅰでは、沖縄の産業及び労働雇用問題に対する共通認識を踏まえ、グループでそれぞれのテーマにもとづき、アンケートやインタビュー調査等の実態調査を行った。専門演習Ⅱでは、各自設定したテーマを深く掘り下げて詳細な調査・分析を行い、卒業論文を作成する。特にテーマの制限はしない。各自で興味・関心のあるテーマを選ぶ。

【授業の展開計画】

第1週 オリエンテーション
第2週 論文テーマの報告
第3週～5週 調査方法等に関する討論
第6週～16週 各自の調査分析をもとにした報告・ディスカッション

【履修上の注意事項】

討論での発言や他の学生の意見を聞く姿勢など演習中の態度も重視する。

【評価方法】

論文のプレゼンや討議内容、出席及び論文内容を総合的に評価する。

【テキスト】

論文作成のための討議を中心とするため特に指定しない。
必要に応じて論文作成に必要な資料、文献等を紹介する。

【参考文献】

専門演習ⅡA

担当教員 安藤 由美

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習Ⅰで調査した「沖縄の金融・経済問題」に基づき、卒業論文を作成・提出する。

【授業の展開計画】

前期：卒業論文のテーマを決め、資料収集を行う

後期：卒業論文を作成する。

【履修上の注意事項】

出席を重視する。

【評価方法】

出席状況・卒業論文

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし

専門演習ⅡA

担当教員 宮城 和宏

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次に学習してきたことを基にいくつかのグループに分かれ、ゼミ論を作成する。

【授業の展開計画】

- 1回 オリエンテーション
- 2回 グループ分けと報告割り当て
- 3回～16回 報告・ディスカッション

【履修上の注意事項】

産業組織論Ⅰ・Ⅱ、経済政策総論Ⅰ・Ⅱを履修しておくこと。積極的に議論に参加すること。

【評価方法】

課題発表の内容、参加姿勢、出席状況

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし

専門演習ⅡA

担当教員 村上 了太

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は、就職や進学を控えた4年次生を対象に開講される。4年間の学業の総括を「卒業論文」に成就させていく。実際には専門演習ⅡBにて提出するが、前期開講科目である本演習は、卒業論文の中間発表も行っていく。就職、進学など学生諸君の目的に応じた指導も行いたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（前期）
2	卒業研究の意義と報告割当
3	報告・ディスカッション（1）
4	報告・ディスカッション（2）
5	報告・ディスカッション（3）
6	報告・ディスカッション（4）
7	報告・ディスカッション（5）
8	工場見学または社会人特別講師による授業
9	報告・ディスカッション（6）
10	報告・ディスカッション（7）
11	報告・ディスカッション（8）
12	報告・ディスカッション（9）
13	報告・ディスカッション（10）
14	報告・ディスカッション（11）
15	前期のまとめ
16	予備日

【履修上の注意事項】

- (1) この演習は「卒業研究ゼミ」と位置づける。「大学生活で何を学んだのか」を総括するゼミである。
- (2) 専門演習ⅡAは、同ⅡBに提出する卒業論文の中間報告を行う。詳細は演習時間内に適宜説明する。

【評価方法】

出席状況（30%）、卒業論文の中間報告（50%）、提出物（20%）の割合で評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

適宜紹介する。

専門演習ⅡA

担当教員 梅井 道生

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習Ⅰでは、東南アジア地域における経済問題の概略を学習してきた。本年度は、それをさらに発展させ、テーマを絞り込んでいきたい。そして、最終的には、卒業論文にまとめていく。

【授業の展開計画】

前期:ゼミ生が自主的にアジア地域の情報収集を行い、研究を進める。

後期:卒業論文のテーマを決め、研究発表を行う。

【履修上の注意事項】

出席を重視する。また、積極的な討論を求められる。

【評価方法】

提出された卒業論文で評価する・

【テキスト】

特に指定しない。変化の非常に激しい地域であるから、ネット情報が有効である。

【参考文献】

特になし。

専門演習ⅡB

担当教員 梅井 道生

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習Ⅰでは、東南アジア地域における経済問題の概略を学習してきた。本年度は、それをさらに発展させ、テーマを絞り込んでいきたい。そして、最終的には、卒業論文にまとめていく。

【授業の展開計画】

前期:ゼミ生が自主的にアジア地域の情報収集を行い、研究を進める。

後期:卒業論文のテーマを決め、研究発表を行う。

【履修上の注意事項】

出席を重視する。また、積極的な討論を求められる。

【評価方法】

提出された卒業論文で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。変化の非常に激しい地域であるから、ネット情報が有効である。

【参考文献】

特になし。

専門演習ⅡB

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習ⅡB

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習ⅡAで行った基礎調査や報告を踏まえ、卒業論文を仕上げていく。大学4年間の集大成として卒業論文を仕上げることのできるよう、指導・助言を行っていきたい。

【授業の展開計画】

第1週 オリエンテーション
第2週～3週 中間報告
第4週～8週 報告とディスカッション
第9週～12週 卒論のプレゼンテーション
第15週～16週 卒論編集

【履修上の注意事項】

討論での発言や他の学生の意見を聞く姿勢など演習中の態度も重視する。

【評価方法】

卒業論文のプレゼンや討議内容、出席及び論文内容を総合的に評価する。

【テキスト】

論文作成のための討議を中心とするため特に指定しない。
必要に応じて論文作成に必要な資料、文献等を紹介する

【参考文献】

専門演習ⅡB

担当教員 安藤 由美

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習Ⅰで調査した「沖縄の金融・経済問題」に基づき、卒業論文を作成・提出する。

【授業の展開計画】

前期：卒業論文のテーマを決め、資料収集を行う

後期：卒業論文を作成する。

【履修上の注意事項】

出席を重視する。

【評価方法】

出席状況・卒業論文

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし

専門演習ⅡB

担当教員 宮城 和宏

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期に引き続き、各グループによる報告・ディスカッションを行い、最終的にゼミ論としてまとめる。

【授業の展開計画】

1回～16回 報告・ディスカッション

【履修上の注意事項】

産業組織論Ⅰ・Ⅱ、経済政策総論Ⅰ・Ⅱを履修しておくこと。積極的に議論に参加すること。

【評価方法】

課題発表の内容、参加姿勢、出席状況

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし

専門演習ⅡB

担当教員 崎浜 靖

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習ⅡBは、前期の専門演習ⅡAで学んだことをふまえ、卒業論文を作成・提出する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	研究計画書の修正・報告①
3	研究計画書の修正・報告②
4	研究計画書の修正・報告③
5	報告・ディスカッション①
6	報告・ディスカッション②
7	報告・ディスカッション③
8	報告・ディスカッション④
9	報告・ディスカッション⑤
10	報告・ディスカッション⑥
11	卒業研究①
12	卒業研究②
13	卒業研究③
14	卒業研究④
15	卒業研究⑤
16	卒業研究⑥

【履修上の注意事項】

出席を重視する。

【評価方法】

出席、報告、議論への参加状況などで総合的に判断する。

【テキスト】

テキスト：特になし

【参考文献】

参考文献：各自の研究テーマにあった参考文献、資料等を適宜紹介する。

専門演習ⅡB

担当教員 村上 了太

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文の作成は、大学生活の総決算の意味も持ち合わせている。専門演習ⅡAとともに、また大学で何を学んだかも併せ持って執筆に臨んでもらいたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（後期）
2	卒業研究の中間発表の割り当て・解説など
3	報告・ディスカッション①
4	報告・ディスカッション②
5	報告・ディスカッション③
6	報告・ディスカッション④
7	報告・ディスカッション⑤
8	報告・ディスカッション⑥
9	報告・ディスカッション⑦
10	報告・ディスカッション⑧
11	報告・ディスカッション⑨
12	報告・ディスカッション⑩
13	卒業論文仮提出・修正①
14	卒業論文仮提出・修正②
15	卒業論文仕上げ・提出
16	予備日

【履修上の注意事項】

専門演習ⅡAを履修した者を履修条件とする。

【評価方法】

出欠状況（50％）、卒業論文（50％）で評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

地域経済論

担当教員 平敷 卓

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

地方財政論 I

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

景気の低迷もあり国の財政事情が厳しくなる中、国と地方の役割が真剣に議論されています。これまでように財政的に国に大きく依存する形から、地域経済の自立化を目指しつつ地方の自主性を重視するような考え方に変わってきています。近年の市町村合併や公務員の削減もこの動きと密接に関係しています。これは、皆さんを含む地域住民にとっては、生活スタイルに影響を与える大きな変動です。そのためには財政に対する知識が必要です。本講義では地方財政制度の基礎理論を学び、国家財政と地方財政の関係とその変遷について学びます。このような基礎理論を踏まえ、後期では自分達の市町村の財政分析を行います。

【授業の展開計画】

第1週 講義計画の説明
第2・3週 地方財政の実態
第4・5週 国と地方の機能分担
第6・7週 制度としての地方財政
第8・9週 地方公共支出の経済学
第10・11週 地方団体の行財政改革
第12・13週 広域行政と狭域行政
第14・15週 地方税の体系と原則
第16週 試験

【履修上の注意事項】

真剣に講義を聞き、討議に参加できること。

【評価方法】

レポート及び試験を総合的に評価する

【テキスト】

「地方財政」 林宜嗣 有斐閣ブックス

【参考文献】

「地方財政論」 税務経理協会・「現代の地方財政」 有斐閣ブックス・「はじめて学ぶ国と地方の財政学」 日本評論社 「図解 よく分かる自治体財政のしくみ」 学陽書房

地方財政論Ⅱ

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

景気の低迷、少子高齢化の進行などを背景にして、国と地方の財政赤字が深刻になっています。近年の市町村合併や公務員の削減もこの動きと密接に関係しています。これは、皆さんを含む地域住民にとっては、生活スタイルに影響を与える大きな変動です。そのためには財政に対する知識が必要です。本講義では、地方財政制度の基礎理論を学ぶとともに、後半では実践編として、自分の住んでいる市町村の財政分析を実際に体験してもらいます。これにより、自分達の市町村の財政の実力を診断し、一住民として財政を分析できる力を養います。

【授業の展開計画】

- 第1週 講義計画の説明
- 第2週 地方財政改革の動き
- 第3週 地方税の改革
- 第4週 //
- 第5週 国庫支出金と地方財政
- 第6週 //
- 第7週 地方交付税と財政調整
- 第8週 //
- 第9週 地方債の発行と国の関与
- 第10週 //
- 第11週 地域づくりと地方団体の役割
- 第12週 //
- 第13週 市町村財政分析の実習Ⅰ
- 第14週 市町村財政分析の実習Ⅱ
- 第15週 市町村財政分析の実習Ⅲ
- 第16週 テスト

【履修上の注意事項】

真剣に講義を聞き、討議に参加できること。

【評価方法】

出席状況とレポート及び試験を総合的に評価する

【テキスト】

「地方財政」 林宜嗣 有斐閣ブックス

【参考文献】

「地方財政論」税務経理協会・「現代の地方財政」有斐閣ブックス・「はじめて学ぶ国と地方の財政学」日本評論社 「図解 よく分かる自治体財政のしくみ」 学陽書房

中小企業論 I

担当教員 村上 了太

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義の目的は、経営学を道具に中小企業を理解することである。いわゆる大企業との比較を試みながら、中小企業の強みや弱みなどを理解し、日本や沖縄の産業構造の理解を進めていきたい。また起業に関する理解も深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義の狙い、出欠、提出物などの説明）
2	中小企業とは何か？
3	経営学の理解
4	事例研究①
5	事例研究②
6	事例研究③
7	事例研究④
8	中間試験
9	事例研究⑤
10	事例研究⑥
11	事例研究⑦
12	事例研究⑧
13	事例研究⑨
14	事例研究⑩
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義中の私語や携帯電話の通話は禁止する。

【評価方法】

出席（50%）＋試験（中間25%＋期末25%）。

【テキスト】

黒崎誠『世界を制した中小企業』講談社（現代新書）、2003年。
帝国データバンク史料館・産業調査部編『百年続く企業の条件』朝日新聞出版（朝日新書）、2009年。

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

中小企業論Ⅱ

担当教員 -上江洲 豪

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本経済史 I

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本経済史Ⅱ

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本経済論 I

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本経済論Ⅱ

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

ファイナンシャルプランニング

担当教員 安藤 由美

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ファイナンシャル・プランナー（FP）の仕事は、顧客の人生設計に基づいて総合的な資産設計をプランニングし、提案することです。金融機関で仕事する上で、FP知識は不可欠です。また自分の将来設計をする上で重要な知識を、学生の段階で理解しておくことは有益です。授業では、学科試験の領域を整理しながら学習する。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 ライフプランニングと資金計画（1）
- 3 ライフプランニングと資金計画（2）
- 4 リスク管理（1）
- 5 リスク管理（2）
- 6 金融資産運用（1）
- 7 金融資産運用（2）
- 8 中間テスト1
- 9 タックスプランニング（1）
- 10 タックスプランニング（2）
- 11 不動産（1）
- 12 不動産（2）
- 13 相続・事業承継（1）
- 14 相続・事業承継（2）
- 15 中間テスト2
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

毎回電卓を持参すること。
前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

中間テスト（2回）、期末テスト、小テストに基づき評価する。

【テキスト】

フィナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速テキスト〈2013-2014年版〉』 日本経済新聞出版社 2013年

【参考文献】

フィナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速問題集〈2013-2014年版〉』 日本経済新聞出版社 2013年

ファイナンシャル・プランニング I

担当教員 安藤 由美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ファイナンシャル・プランナー（FP）の仕事は、顧客の人生設計に基づいて総合的な資産設計を計画し、提案することです。金融機関で仕事する上で、FP知識は不可欠です。また自分の将来設計をする上で重要な知識を、学生の段階で理解しておくことは有益です。
ファイナンシャル・プランニング I とファイナンシャル・プランニング II を同時期に受講することで、「学科」と「実技」を効率的に学習する。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 ライフプランニングと資金計画（1）
- 3 ライフプランニングと資金計画（3）
- 4 リスク管理（1）
- 5 リスク管理（3）
- 6 金融資産運用（1）
- 7 金融資産運用（3）
- 8 中間テスト1
- 9 タックスプランニング（1）
- 10 タックスプランニング（3）
- 11 不動産（1）
- 12 不動産（3）
- 13 相続・事業承継（1）
- 14 相続・事業承継（3）
- 15 中間テスト2
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

電卓を持参すること。
前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

中間テスト（2回）、期末テスト、小テストに基づき評価する。

【テキスト】

ファイナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速テキスト〈2013-2014年版〉』日本経済新聞出版社 2013年

【参考文献】

ファイナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速問題集〈2013-2014年版〉』日本経済新聞出版社 2013年

ファイナンシャル・プランニングⅡ

担当教員 安藤 由美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ファイナンシャル・プランナー（FP）の仕事は、顧客の人生設計に基づいて総合的な資産設計を計画し、提案することです。金融機関で仕事する上で、FP知識は不可欠です。また自分の将来設計をする上で重要な知識を、学生の段階で理解しておくことは有益です。
ファイナンシャル・プランニングⅠとファイナンシャル・プランニングⅡを同時期に受講することで、「学科」と「実技」を効率的に学習する。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 ライフプランニングと資金計画（2）
- 3 ライフプランニングと資金計画（4）
- 4 リスク管理（2）
- 5 リスク管理（4）
- 6 金融資産運用（2）
- 7 金融資産運用（4）
- 8 中間テスト1
- 9 タックスプランニング（2）
- 10 タックスプランニング（4）
- 11 不動産（2）
- 12 不動産（4）
- 13 相続・事業承継（2）
- 14 相続・事業承継（4）
- 15 中間テスト2
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

「ファイナンシャル・プランニングⅠ」とセットで受講すること。抽選で「ファイナンシャル・プランニングⅠ」の登録者となった人のみ、本講義を登録すること。
毎回電卓を持参すること。
前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

中間テスト（2回）、期末テスト、小テストに基づき評価する。

【テキスト】

ファイナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速テキスト〈2013-2014年版〉』 日本経済新聞出版社 2013年

【参考文献】

ファイナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速問題集〈2013-2014年版〉』 日本経済新聞出版社 2013年

福祉国家論

担当教員 村上 了太

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「福祉国家論」は、国家の機能を安全保障や治安維持など最低限なものであるべきという自由主義国家論とは相対峙する概念である。経済的格差の是正のために、財政や雇用などの諸策も推進していくという概念である。本講義では、主に北欧型（スカンジナビア）、自由主義型（アングロサクソン）、保守主義型（欧州大陸）という三つの国家モデルから福祉国家について考える。最後に日本型福祉国家を考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の紹介と評価の方法
2	福祉国家とは何か？
3	企業福祉とは何か？
4	国家の変遷
5	福祉国家の管理① －TVAを事例として－
6	福祉国家の管理② －組織マネジメントを中心に－
7	福祉国家の管理③ －組織マネジメントと経営学－
8	中間試験
9	予算管理
10	集権と分権 －第三の道－
11	事例研究：アングロサクソンモデル
12	事例研究：北欧モデル
13	事例研究：欧州大陸モデル
14	事例研究：日本モデル
15	福祉国家論のまとめと質疑応答
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 講義中の私語・携帯電話などは一切禁止。
- (2) 新聞の国際欄を読むように習慣づけること。

【評価方法】

出席（50%）＋試験（中間25%＋期末25%）で評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

エスピン・アンデルセン（岡沢・宮本監訳）『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房、2001年。
アンソニー・ギデンズ（佐和訳）『第三の道』日本経済新聞社、1999年。

貿易実務 I

担当教員 新垣 勝弘

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

貿易実務Ⅱ

担当教員 新垣 勝弘

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

簿記 I

担当教員 安藤 由美

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

簿記は、会社のお金や財産を管理するための記録手法です。

「1年間の利益」を正確に計算できるのは、簿記のおかげです。

「パソコン・会計・英語」は社会人の必須知識とされています。会計（＝簿記）を学び、必須知識を備えた社会人になりましょう。

簿記を学ぶことにより、会社経営者が「コスト削減」や「売上増加」と発言する理由が、理解できるようになります。

【授業の展開計画】

1. 講義の概要・計画
2. 簿記の基礎
3. 商品売買（2）
4. 当座預金
5. 手形（1）
6. 中間テストA
7. 有価証券
8. 債権債務（2）
9. 減価償却
10. 繰延・見越
11. 伝票・締切
12. 精算表（2）
13. 中間テストB
14. 試算表（2）
15. 過去問題（2）
16. 期末テスト

【履修上の注意事項】

「簿記Ⅱ」とセットで受講すること。

講義には毎回電卓を持参すること。

本講義の履修は、経済学科「企業分析」を登録する際の条件となっている。

前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

中間テスト、期末テスト、小テストに基づき評価する。

【テキスト】

滝澤ななみ「スッキリわかる日商簿記3級」第5版 TAC出版 2013年

【参考文献】

簿記Ⅱ

担当教員 安藤 由美

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

簿記は、会社のお金や財産を管理するための記録手法です。

「1年間の利益」を正確に計算できるのは、簿記のおかげです。

「パソコン・会計・英語」は社会人の必須知識とされています。会計（＝簿記）を学び、必須知識を備えた社会人になりましょう。

簿記を学ぶことにより、会社経営者が「コスト削減」や「売上増加」と発言する理由が、理解できるようになります。

【授業の展開計画】

1. 講義の概要・計画
2. 商品売買（1）
3. 現金
4. 小口現金
5. 手形（2）
6. 貸付金
7. 債権債務（1）
8. 消耗品・貸倒
9. 資本金
10. 帳簿記入
11. 精算表（1）
12. 精算表（3）
13. 試算表（1）
14. 過去問題（1）
15. 過去問題（3）
16. 期末テスト

【履修上の注意事項】

「簿記Ⅰ」とセットで受講すること。抽選で「簿記Ⅰ」の登録者となった人のみ、本講義を登録すること。

講義には毎回電卓を持参すること。

本講義の履修は、経済学科「企業分析」を登録する際の条件となっている。

前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

中間テスト、期末テスト、小テストに基づき評価する。

【テキスト】

滝澤ななみ「スッキリわかる日商簿記3級」第5版 TAC出版 2013年

【参考文献】

マクロ経済学 I

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

マクロ経済学Ⅱ

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

マルクス経済学 I

担当教員 梅井 道生

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マルクス経済学は、わが国の高度成長期にも、その破綻の時期にも、絶えず真実を追究しつづけてきた。そして現在、世界の激動期に、ますますその真価を発揮しつつあるものが、マルクス経済学である。従来の経済学は、人間や自然の視点が欠落しているといわれる。いわば人間の根元的な営みが全く無視されてきたのである。この問題に関する答えは、実はマルクス経済学が提供してくれる。そのような意味で、この経済学を学ぶ意義がある。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容、評価の方法などの説明
2	マルクス経済学の形成
3	初期マルクス
4	中期マルクス
5	『資本論』の成立
6	マルクス経済学の対象と課題
7	マルクス経済学の方法
8	商品の二要因と労働の二重性
9	価値形態論の課題
10	価値表現の論理
11	価値形態の発展
12	商品の物神性
13	交換過程の課題
14	全面的交換の矛盾と貨幣成立の必然性
15	貨幣の諸機能
16	期末試験

【履修上の注意事項】

理論を積み重ねていく講義であるから、毎回の出席が必要である。

【評価方法】

定期テストおよびレポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

開講時に指示する。

【参考文献】

講義の中で適宜指示する。

マルクス経済学Ⅱ

担当教員 梅井 道生

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マルクス経済学Ⅰからの続きである。ここでは貨幣、資本、剰余価値理論、賃金論を中心に講義を進めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	貨幣の機能
2	価値の尺度、価格の度量基準、铸貨、価値章標
3	貨幣蓄蔵、支払い手段、世界貨幣
4	貨幣の資本への転化—資本の概念
5	W-G-WとG-W-Gの形態的、内容的相違
6	資本の一般的定式の矛盾
7	労働力の売買
8	労働力の商品化と価値規定
9	剰余価値の生産
10	絶対的剰余価値
11	相対的剰余価値、特別剰余価値
12	賃金
13	労働力の価値および価格の賃金への転化
14	賃金の基本形態—時間賃金、出来高賃金
15	資本の循環過程
16	期末試験

【履修上の注意事項】

理論の積み重ねの講義であるから、毎回の出席が必要である。

【評価方法】

定期テストおよびレポート等で総合的に評価する。

【テキスト】

開講時に指示する。

【参考文献】

必要があれば講義時に指示する。

マルチメディア表現

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マルチメディアに関する基本的な考え方、基礎的な技術や表現方法を実践的な演習・実習を通して修得し、「情報を伝達する」ということや「イメージと表現」についての理解を得ることを目的とする。イメージの様々な基本的表現や、ビジュアルコミュニケーションにおけるデザインのありかた、また、技術や視覚的効果としてのレイアウト（レイアウト・フォーマットの概念）などについて学習し、その重要性を認識・実践できることを目標とする。

【授業の展開計画】

到達目標は以下のとおり。

1. マルチメディアの基本的概念について説明ができる
2. 各メディアの特性と制作に必要な技術の基本理論について説明ができる
3. ビジュアルコミュニケーションを通してアイデアを視覚化することができる
4. インストラクショナル・デザインを踏まえ、マルチメディアコミュニケーションの評価手法を身につける

- 1回目：メディア・リテラシーの定義（様々なメディア・リテラシーの定義を習得し、自分なりの定義を説明）
- 2回目：フォトランゲージ（写真を読み取る力をつけ、メディアの特性を習得）
- 3回目：マルチメディアの定義と特性（各メディアの特性と利用法を習得し、マルチメディアの定義を説明）
- 4回目：インターネットの仕組み（インターネットの仕組みを理解し、検索方法、メイリングリスト、ストーリーミング技術を理解）
- 5回目：マルチメディアの表現法（様々なマルチメディア教材を紹介し、効果的な表現を習得）
- 6回目：マルチメディアの表現法（様々なマルチメディア教材を紹介し、効果的な表現を習得）
- 7回目：プレゼンテーション手法（パソコンを利用して、効果的なプレゼンテーション手法を習得）
- 8回目：プレゼンテーション手法：上記の続き
- 9回目：中間試験
- 10回目：インストラクショナルデザインの原理（教材開発、メディア開発に必要な設計方法を習得）
- 11回目：インストラクショナルデザインの原理：上記の続き
- 12回目：インストラクショナルデザインの原理：上記の続き
- 13回目：上記の授業について時間不足が生じた場合補講
- 14回目：上記の授業について時間不足が生じた場合補講
- 15回目：振り返り
- 16回目：最終試験

【履修上の注意事項】

ディスカッション形式や発表の場面が多いため、積極的に授業参加を求める。

【評価方法】

授業への出欠、参加姿勢、最終試験などを総合的に判断、評価する。

【テキスト】

特に指定はしない。手適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

インストラクショナルデザインの原理（鈴木克明監訳：北大路書房）、行動変容法入門（レイモンドGミルテンバーガー）他、。

ミクロ経済学 I

担当教員 一宮田 亮

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では、ミクロ経済学の基礎を学ぶ。ミクロ経済学は、家計・企業の経済行動と市場の働きを分析する理論であり、近年では、財政、金融、労働など多くの分野で分析ツールとして利用されている。そうした分野の科目を履修する際にも役立つので、しっかりと身に付けてもらいたい。講義では、現実の経済問題への応用についても触れる予定である。

【授業の展開計画】

以下は計画であり、変更される場合もある。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	ミクロ経済学の基礎概念
3	市場の役割 需要と供給1
4	市場の役割 需要と供給2
5	消費者行動の理論1 選好と効用
6	消費者行動の理論2 無差別曲線を用いた消費行動の分析
7	消費者行動の理論3 代替と補完
8	応用：貯蓄行動、労働供給行動の分析
9	生産者行動の理論1
10	生産者行動の理論2
11	生産者行動の理論3
12	完全競争市場の均衡
13	不完全競争市場の均衡
14	市場の失敗1
15	市場の失敗2
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

数学とくに微分の初歩的な知識が必要となる。

【評価方法】

学期末試験によりおこなう。講義中に小テストを行う場合がある。

【テキスト】

指定しない。講義内容のプリントを適宜配布する。

【参考文献】

スティグリッツ他著 『スティグリッツ ミクロ経済学』 東洋経済新報社
 矢野誠著 『ミクロ経済学の基礎』 岩波書店
 林貴志著 『ミクロ経済学 増補版』 ミネルヴァ書房

ミクロ経済学Ⅱ

担当教員 未定

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

理論経済学 I

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

理論経済学Ⅱ

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

労働経済学Ⅰ

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

沖縄県の失業率は、全国一高い水準となっており、高校・大学卒業予定者の内定率も全国に比べ低い。また、フリーターやニートなど若年者の雇用・失業問題も社会的な関心を高めている。このような環境は、いずれ就職戦線に出る皆さんにも身近な問題である。本講義では、労働市場を形成する労働供給及び労働需要の要因について学ぶ。すなわち、我々は何を基準に働こうとするのか、企業は何を基準に労働者を雇おうとするのか、また、なぜ失業が発生するのかなど労働経済の基礎理論を学ぶ。これによって、労働経済学Ⅱでテーマとして取り上げる沖縄の若年失業率の高さやフリーター問題、学歴・男女間賃金格差などの現在の労働問題の理解が容易になる。

【授業の展開計画】

第1週 講義計画の説明

第2週～第10週（基礎理論編）

1. 労働経済学について
2. 労働需要
3. 労働供給
4. 労働市場分析（労働の需給分析）

第11週～16週（実態編）

5. 失業Ⅰなぜ失業は発生するのか（失業の理論）
6. 失業Ⅱどんな人が失業しているのか（ビデオ鑑賞など）
7. 賃金（年功序列賃金、成果主義など）
8. 労働時間（残業代の理論など）
8. 期末試験

【履修上の注意事項】

真剣に講義を聞き、討議に参加できること

【評価方法】

出席状況とレポート及びテストを総合的に評価する

【テキスト】

特になし。内容に応じてプリントや資料配布、ビデオ上映、労働をテーマにした映画上映等を行う。

【参考文献】

清家篤著、「労働経済」東洋経済出版社、玄田有史 「仕事のなかの曖昧な不安」中央公論新社、中馬宏之著、「労働経済学」新世社

労働経済学Ⅱ

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、労働経済学Ⅰで学んだ基礎理論をもとに沖縄県の雇用労働情勢や雇用政策等の現実の問題、さらに国や県が行っている雇用政策等について学ぶ。

特に、フリーターや若年失業者問題は学生諸君にとって身近な問題であり、若年者の意識の問題や企業側の問題についてビデオ等による具体例を見ながら検討する。また、正社員と非正社員の処遇を巡る問題、ブラック企業の問題、賃金における学歴格差や男女間格差等についても学ぶ。さらに、オランダにおけるワークシェアリングなど海外の働き方や雇用対策についても学ぶ。

【授業の展開計画】

第1週 講義計画の説明

2. 現在の労働問題概観（景気と労働問題、若者の働き方、派遣の問題など）

3. 賃金と労働時間

4. 賃金格差Ⅰ（高卒と大卒なぜ賃金が違うのかなど）

5. 賃金格差Ⅱ（男女格差、産業間格差の実態など）

6. 全国と沖縄の雇用・失業状況

7. 若者の雇用問題Ⅰ（大卒の就職率、フリーターなどの現状）

8. 若者の雇用問題Ⅱ（若者の就業意識、企業はフリーターをどう評価しているかなど）

9. 沖縄の雇用問題Ⅰ（現状と課題）

10. 沖縄の雇用問題Ⅱ（沖縄の若者はなぜすぐ離職するのか、沖縄にブラック企業はあるかなど）

11. ワーキングプアの実態

12. グローバル時代における働き方Ⅰ（海外に仕事が流れる、労働移民の実態など）

13. グローバル時代における働き方Ⅱ（日本と外国どっちが働きやすいのかなど）

14. 高齢者雇用問題（定年制、年金問題、再雇用の問題など）

15. これからの働き方（ワークシェアリング、ワークライフバランスなど）

16. 期末試験

【履修上の注意事項】

真剣に講義を聞き、討議に参加できること

【評価方法】

出席状況とレポート及びテストを総合的に評価する

【テキスト】

特になし。内容に応じてプリントや資料配布、ビデオ上映等を行う。

【参考文献】

樋口美雄著、「労働経済学」東洋経済出版社、玄田有史著、「仕事のなかの曖昧な不安」中央公論新社、玄田有史、「ニートフリーターでもなく失業者でもなく」幻冬舎